Sony online

http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

- ナビダイヤル……………… 0570-00-3311
  （全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
- Fax …………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00

保証期間中の接続・操作・故障に関するお問い合わせは
テクニカルインフォメーションセンターへ
フリーダイヤル　0120-37-8154

Printed in Japan

3-060-719-**02**(1)

ポータブル CD/DVDプレーヤー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DVP-FX1
DVP-F5

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～12ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。16ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

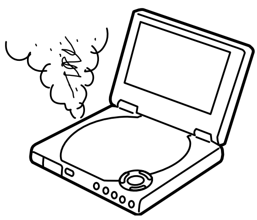
1年に1度は、電源コードに傷みはないか、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使っていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

❶ **電源を切る**

❷ **ACパワーアダプターをコンセントから抜くか、バッテリーをはずす**

❸ **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電　指挟み

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



強制　プラグをコンセントから抜く

この取扱説明書について

- **この取扱説明書は**DVP-FX1**および**DVP-F5**共通です。**
  取扱説明書中のイラストは、主にDVP-FX1**のものを記載しています。**
- 「設置と準備」（19〜33ページ）をご覧になって接続などの準備を済ませてください。
- 基本的な使いかたは、「再生する」（34〜48ページ）をご覧ください。
- さらに進んだ使いかたについては、49ページ以降をご覧ください。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
	リモコンで操作します。
	知っていると便利な情報です。
DVD	DVDビデオで使える機能です。
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能です。
CD	音楽用CDで使える機能です。

目次

設定と調整

その他の操作

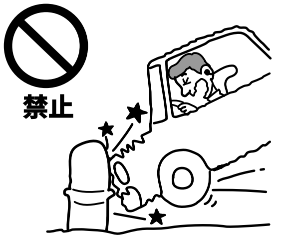
その他

⚠警告



下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない



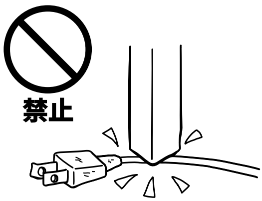
- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンやイヤホンなどを使用したり、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

分解や改造をしない



火災や感電、けがの原因となることがあります。
特に、本機に使われているレーザー光が目にあたると危険です。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

電源コードを傷つけない



電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない



上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

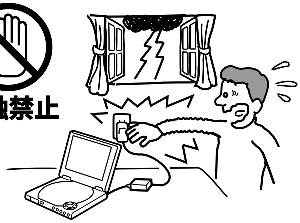
禁止



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止



付属以外のACパワーアダプターや指定以外のカーバッテリーアダプターを使わない

火災や感電の原因となります。

禁止

液晶画面を長時間続けて見ない

液晶画面を長時間続けて見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
液晶画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。
万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

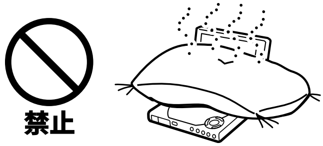
ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。



本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。
呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



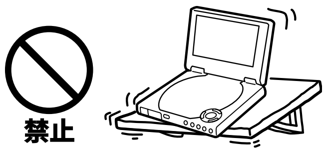
はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。
ボリュームは徐々に上げましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。



幼児の手の届かない場所に置く

ふたに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



回転しているディスクにはさわらない

ディスクぶたを開けると、ディスクが回転していることがあります。
回転しているディスクにさわると、けがの原因となることがあります。



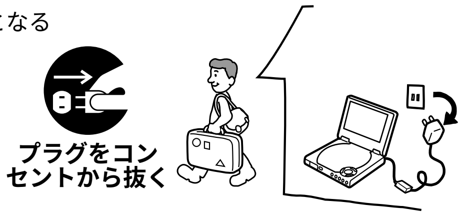
コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



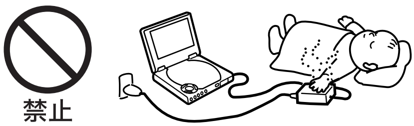
長期間使わないときは、電源をはずす

長期間使用しないときはACパワーアダプターやバッテリーをはずして保存してください。火災の原因となることがあります。



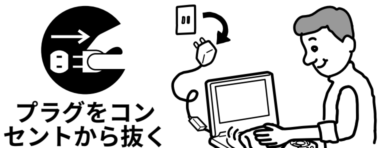
通電中、本体やACパワーアダプター、バッテリーに長時間ふれない

温度が相当上がることがあります。長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

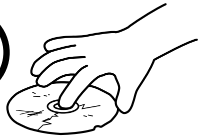


⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

禁止



本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れてけがの原因となることがあります。

禁止

液晶パネルを強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

禁止

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

禁止

バッテリーパックについての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

本機以外で充電しない

禁止

火の中に入れない、ショートさせたり、分解しない、電子レンジやオーブンで加熱しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

禁止

また、コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。

⚠警告

火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。

危険防止の保護回路が壊れることがあります。

禁止

ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりして、強い衝撃を与えない

禁止

⚠注意

長期間使用しないときは、バッテリーパックを取りはずす

バッテリーパックを取り付けたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

強制

濡れた手でさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

Li-ion

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の収集・リサイクルおよび
リサイクル協力店に関する問い合わせ先：
社団法人電池工業会
TEL：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp

電池についての安全上のご注意

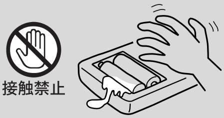
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

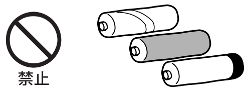


⚠注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

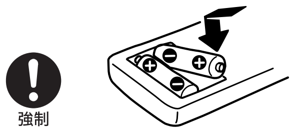
➡ 電池の品番を確かめ、お使いください。



＋とーの向きを正しく入れる

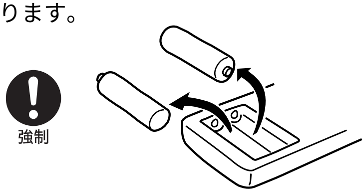
＋とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



再生できるディスクについて

本機では次のディスクを再生できます。次のディスク以外は再生できません。

ディスクの種類	DVDビデオ		ビデオCD		音楽用CD	
ディスクに付いているマーク（ロゴ）						
記録しているもの	音声＋映像		音声＋映像		音声	
ディスクの大きさ	12cm	8cm	12cm	8cm	12cm	8cm（CDシングル）
最長再生時間	約4時間（片面） 約8時間（両面）	約80分（片面） 約160分（両面）	74分	20分	74分	20分

"DVD VIDEO" ロゴは商標です。

DVP-FX1はNTSCカラーテレビ方式／PALカラーテレビ方式に対応しています。
SECAMカラーテレビ方式対応のディスクは再生できません。
本機でPALカラーテレビ方式対応のディスクを再生すると、映像信号はPAL方式で出力されます。この映像をNTSCカラーテレビ方式で見ることはできません。

DVP-F5はNTSCカラーテレビ方式に対応しています。NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスクは再生できません。

再生可能なDVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDには 2 のように地域番号が表示されているものがあります。表示中の数字は再生できるプレーヤーの地域番号を表わしています。この表示に「2」が含まれていない、または ALL の表示のないDVDは、本機で再生できません。このようなDVDを再生しようとしたときは、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」と画面に表示されます。また地域番号の表示がないDVDでも地域制限されている場合があり、本機で再生できないことがあります。

DVD、ビデオCD再生時の操作上のご注意

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

DVDに表示されているマークの説明

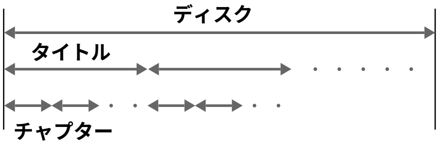
DVDのディスクやパッケージに表示されているマークには以下のようなものがあります。これらのマークは、ディスクに記録されている内容や、使える機能を表しています。
ただし、機能があっても、マークが表示されていないDVDもあります。

マーク	意味
	音声のトラック数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングル数を表します。
16:9 LB	選択可能な画像アスペクト比を表します。
	再生可能な地域番号を表します。

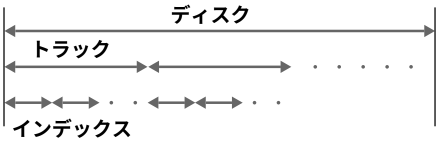
ディスクに関する用語の説明

- **タイトル**
  DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位です。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたります。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号といいます。
- **チャプター**
  DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位をチャプターといいます。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成されます。それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号といいます。ディスクによってはチャプターが記録されていないものもあります。
- **トラック**
  ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）をトラックといいます。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号といいます。

DVD



ビデオCD/CD



- **インデックス（CD）/ビデオインデックス（ビデオCD）**
  ビデオCDおよびCDで、再生したい部分を見つけやすいように、1つのトラックをいくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
  ディスクによってはインデックスが記録されていないものもあります。
- **シーン**
  PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのことをシーンと言います。シーンごとに順に付けられた番号をシーン番号と言います。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback（プレイバック） Control（コントロール）の略です。）

ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクのタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、43ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

本機で再生できないディスクについて

本機では次のディスクなどを再生することはできません。

- CD-ROM(PHOTO CDを含む）
- CD-EXTRAのデータ部分
- DVD-ROM
- DVDオーディオ
- スーパーオーディオCDのHD（ハイデンシティ）レイヤー

ご注意

CD-Rは、ディスクの記録状態によっては再生できないことがあります。

DTS*で記録されたCDを再生するとアナログ出力からは極端に大きなノイズが出ます。DVDプレーヤーのアナログ出力をアンプにつないでいるときは、お手持ちのシステムが破損しないよう細心の注意を払う必要があります。DTS Digital Surround™再生をお楽しみいただくには、DVDプレーヤーのデジタル出力に5.1チャンネルの外部DTS Digital Surround™デコーダーを接続する必要があります。

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレーム及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

* Digital Theater Systems, Inc.からの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital Surround、DTS Digital OutはDigital Theater Systems, Inc.の商標です。

使用上のご注意

設置場所について

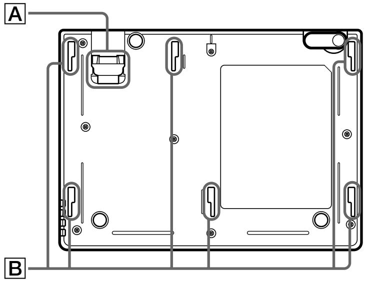
次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
  （チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

液晶ディスプレイについて（DVP-FX1のみ）

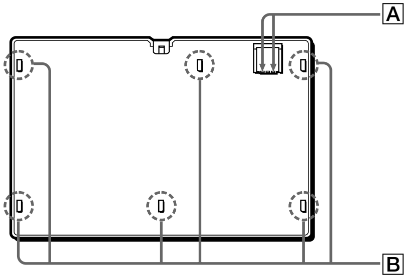
- **液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。**
- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。

本体底面について



- バッテリー接続端子（図のA）およびバッテリー用ガイド穴（図のB）に、ゴミや砂などの異物が入らないように注意して使ってください。
- バッテリー接続端子（図のA）のカバーを開けないでください。

バッテリーパックについて



- ⊕と⊖の端子（図のA）をネックレスなどの金属類でショート（短絡）させないでください
- ⊕と⊖の端子（図のA）のカバーを開けないでください。
- ⊕と⊖の端子（図のA）およびガイド用ツメ（図のB）に、ゴミや砂などの異物が入らないように注意して使ってください。
- 高温になった車の中や炎天下など、60 ℃以上になる所に放置しないでください。
- 水に濡らさないでください。

ACパワーアダプターについて

- 本機には、付属のACパワーアダプターをご使用ください。指定以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACパワーアダプターを海外旅行者用の電子式変圧器などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

音量を調節するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調節すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再度電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

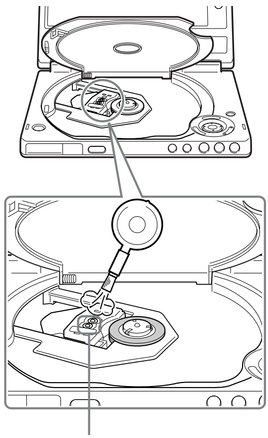
- キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

レンズのお手入れについて

画像が乱れたり、音飛びをするときは、レンズにゴミやほこりがたまっている場合があります。
このときは、市販のカメラレンズ用のブロワーブラシで、レンズのクリーニングをしてください。クリーニングをするときは、レンズに直接触れないようご注意ください。
市販のCD/DVDレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。レンズを破損するおそれがあります。



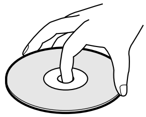
残像現象（画像の焼きつき）のご注意

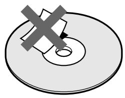
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画を液晶画面またはテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 紙やシールを貼らないでください。
- ディスクにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。



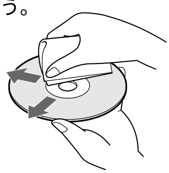


保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽くふきます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布でふいた後、さらに乾いた布で水気をふき取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

特殊な形状のディスクについて

本機でお使いいただける音楽CDは円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状（星形、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

付属品を確認する

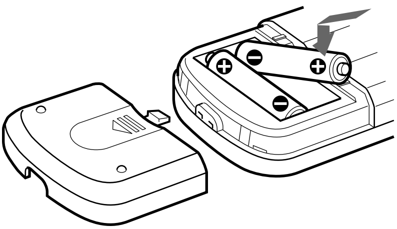
次の付属品がそろっているかを確認してください。

- 映像音声コード（ミニプラグ×2⟷ピンプラグ×3）（1）
- ACパワーアダプター AC-FX1（1）
- 電源コード（1）
- リモコン RMT-D114J（1）
- 単3形乾電池（R6）（2）
- AVコードレスIRトランスミッターIFV-FX1（1）（DVP-F5のみ）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

もし、付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れる。



ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ー⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - ー新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - ー乾電池は充電しないでください。
  - ー長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - ー液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 🅁 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

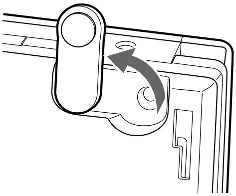
液晶画面を使う（DVP-FX1のみ）

本機の液晶画面でDVDやビデオCDの再生映像を見られます。
また、本機につないだビデオカメラなどの映像を見ることもできます
（「つないだ機器の映像を見る」105ページ）。

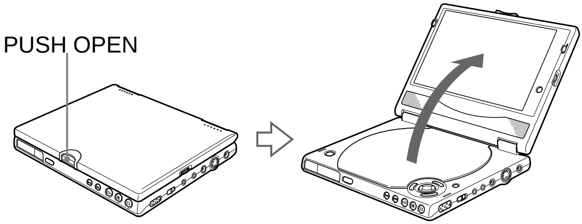
液晶パネルを開く

1 AC**パワーアダプターで使うときは、本機底面の転倒防止タブを出す。**

転倒防止タブで、液晶パネルを開いたときの転倒を防ぎます。



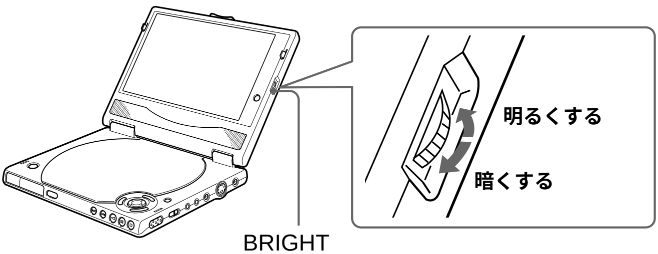
2 PUSH OPEN**ボタンを押して、液晶パネルを開く。**



液晶画面を使うときは、他機との接続は不要です。続けて、「ACパワーアダプターをつなぐ」（31ページ）または、「バッテリーで使う」（32ページ）をご覧ください。

液晶画面の明るさを調節する

本体のBRIGHTダイヤルで調節できます。



画面モードを選ぶ

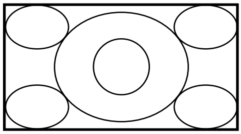
再生映像のサイズ（画面の縦横比）に合わせて、液晶画面の画面モードを選ぶことができます。画面モードは、本体のDISPLAY MODEボタンを押すたびに次のように切り換わります。

→ ワイド → フル → シネマ → ノーマル → 表示切

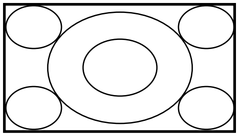
ディスクの画面サイズに合わせて画面モードを選ぶ

ディスクに記録された画面サイズに合わせて、画面モードを選びます。
それぞれの画面モードに適したDVDの画面のサイズは、DVDのジャケットにある表示（4:3、16:9 LB、LB）で示されています。

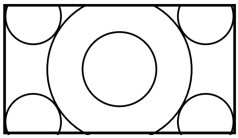
- ワイド 4:3
  4:3画面サイズで記録された画像を、液晶画面いっぱいに表示します。画像の左右を引き伸ばします。



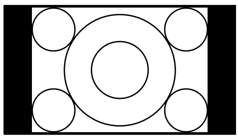
- フル 16:9 LB
  16:9画面サイズで記録された画像を、画面いっぱいに表示します。



- シネマ LB
  4:3画面サイズにレターボックスで記録された画像の、上下の黒の帯などをカットして、画面いっぱいに表示します。ディスクによっては、画像の外側がギザギザに表示されることがあります。



- ノーマル 4:3 16:9 LB LB
  画像の縦横比を変えずに表示します。
  4:3画面サイズで記録された画像では、左右に帯が付きます。
  16:9画面サイズにレターボックスで記録された画像または、4:3画面サイズにレターボックスで記録された画像では、上下左右に帯が付きます。



スピーカーの音量を調節する

内蔵のスピーカーで音声を聞くときは、本体のVOLダイヤルで音量を調節できます。
ヘッドホンの音量も、VOLダイヤルで調節できます。

テレビとつなぐ

テレビのスピーカー（L：左、R：右）から音を出すときの接続です。
接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVP-FX1をご使用の場合

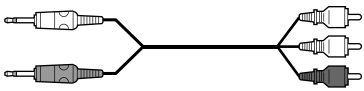
本体のLINE SELECTスイッチを「OUT」にしておいてください。

テレビのスピーカーだけでサラウンド音声を楽しめます

ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにテレビのスピーカーのみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます（VES TV：バーチャル エンハンスト サラウンド TV）。詳しくは、65ページをご覧ください。

必要な接続コード

映像音声コード（付属：1本）

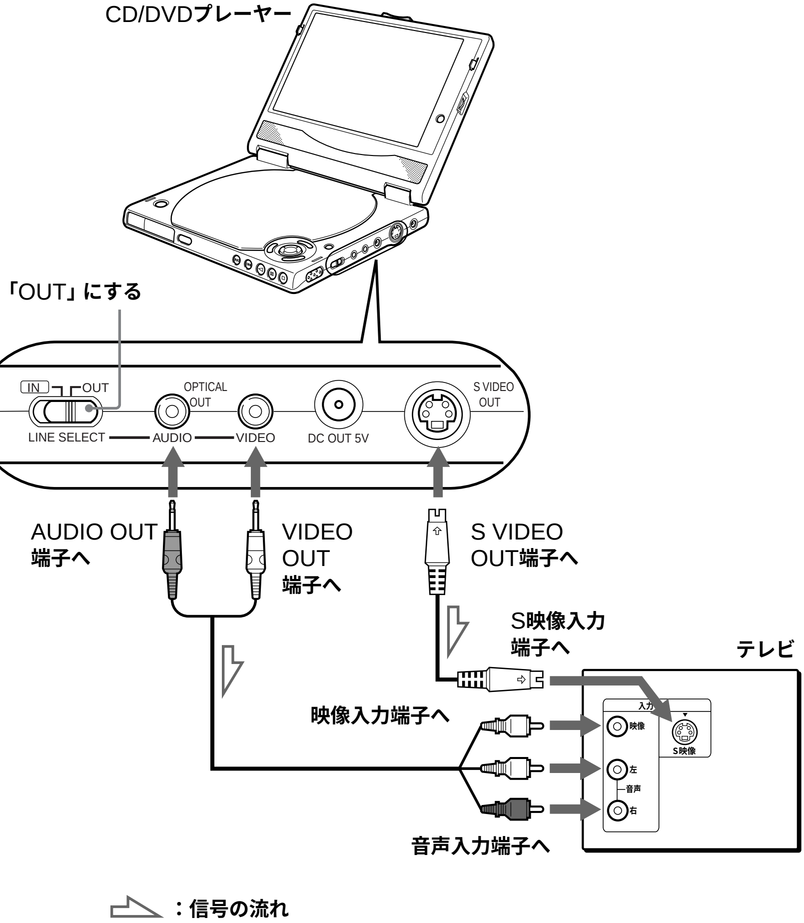


S映像コード（別売り：1本）



本体の黄（映像、VIDEO OUT）端子に黄プラグを、白（音声、AUDIO OUT）端子に黒プラグをつなぎます。
テレビの映像端子には黄プラグを、音声端子には、白（左、L）端子に白プラグを、赤（右、R）端子に赤プラグをつなぎます。
つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

S映像入力端子付きのテレビをお使いのときは、黄色の映像コードでつなぐ代わりに、S映像コード（別売り）をつなぐことをおすすめします。よりきれいな映像が楽しめます。

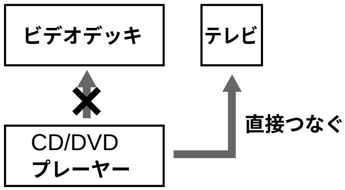


DVP-FX1をご使用の場合

- 液晶画面を消すには
  本体のDISPLAY MODEボタンを繰り返し押します。
- 内蔵スピーカーの音量を調節するには
  本体のVOLダイヤルを使います。

ご注意

- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 本機とビデオデッキを接続しないでください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映すと、画像が乱れることがあります。



設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは83ページをご覧ください。

■ワイドテレビまたはワイドモード機能付きのテレビとつないだとき

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「16:9」にします。お買い上げ時は「16:9」に設定されています（90ページ）。

■通常のテレビとつないだとき

設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」を「4:3 レターボックス」または「4:3 パンスキャン」にします（90ページ）。

アンプとつなぐ

ドルビーデジタル*[1]またはMPEG*[2]、DTSデコーダーが内蔵されていないアンプにつないだスピーカーから音を出すときの接続です。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

DVP-FX1をご使用の場合

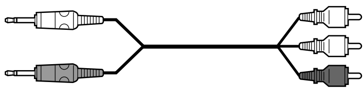
本体のLINE SELECTスイッチを「OUT」にしておいてください。

フロントスピーカーしかつないでいないときもサラウンド音声を楽しめます
ステレオ信号を3D立体音像処理により、リアスピーカーを使わずにフロントスピーカー（L、R）のみで、仮想サラウンドをお楽しみいただけます（VES：バーチャルエンハンスト サラウンド）。詳しくは、65ページをご覧ください。

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
非公開機密著作物。著作権1992–1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。
*[2] MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

必要な接続コード

音声コード（付属：1本）



S映像コード（別売り：1本）

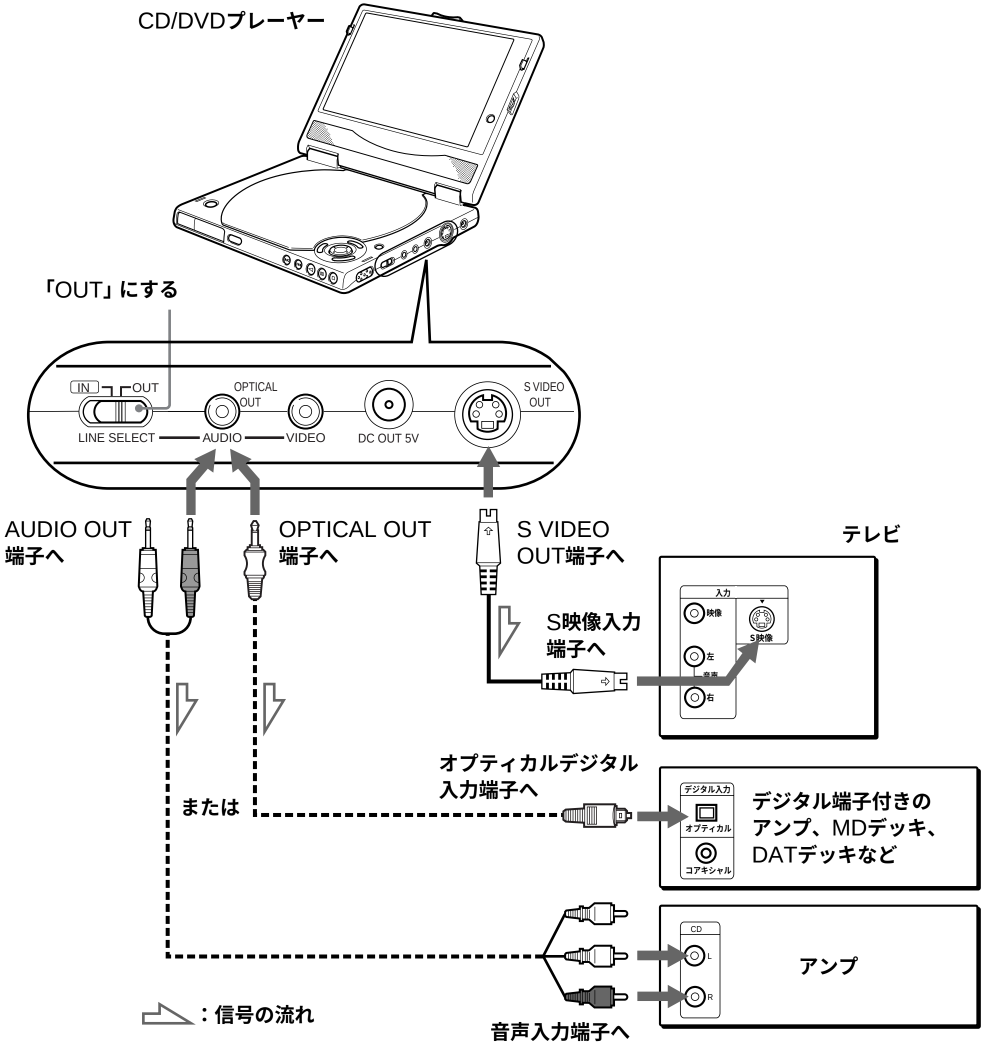


本体の白（音声、AUDIO OUT）端子に黒プラグをつなぎます。
アンプの音声端子には、白（左、L）端子に白プラグを、赤（右、R）端子に赤プラグをつなぎます。
つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音やノイズの原因になります。

デジタル端子付きのアンプやMDデッキ、DATデッキにつなぐときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）を使います。

光デジタル接続コード（別売り：1本）





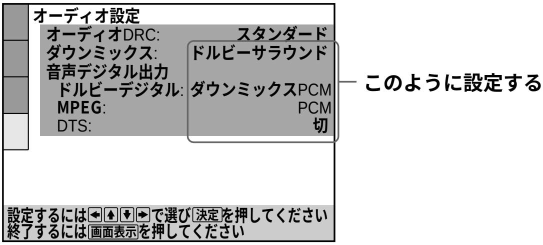
ご注意

テレビにS映像入力端子がないときは、S映像信号で画像を見ることはできません。テレビにS映像入力端子がないときは、黄色の映像コード（別売り）を使って本機のVIDEO OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。詳しくは23ページをご覧ください。テレビに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

光デジタル接続コードを使ってつないだときの設定

■ドルビーデジタルまたはMPEG*、DTSデコーダーが内蔵されていないデジタルアンプにつないで音を出すときや、MDやDATなどのデジタル機器に出力するとき

設定画面の「オーディオ設定」を次のように設定してください（98ページ）。これらは、お買い上げ時の設定です。



ドルビーデジタルまたはMPEG、DTSデコーダー内蔵のデジタル機器をお持ちの場合は

光デジタル接続コードでデジタル機器と接続すると、マルチチャンネルサラウンドサウンドを楽しむことができます。詳しくは、28ページをご覧ください。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

ご注意

光デジタル接続コードを使って接続しているときは、「オーディオ設定」で「光デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に、「MPEG」を「MPEG」に、「DTS」を「入」にしないでください。突然大音量が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがあります。

- 光デジタル接続コードで機器をつないだときは、「VES」を「切」に設定してください。「切」以外に設定すると、次の信号が出力されません。
  – ドルビーデジタル信号（設定画面の「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」にしているとき）
  – MPEGオーディオ信号
- 光デジタル接続コードでつないだときに、ドルビーサラウンド（プロロジック）の効果音をかけていない信号を出力するときは、設定画面の「オーディオ設定」の「ダウンミックス」を「ノーマル」に設定してください。
- マルチチャンネルサラウンド方式で記録されたディスクの音声を、そのままMDデッキやDATデッキでデジタル録音することはできません。

5.1チャンネルサラウンドシステムをつなぐ

ドルビーデジタルまたはMPEG*、DTSデコーダー内蔵のデジタル機器を本機につなぐと、ドルビーデジタル、MPEGオーディオまたはDTS方式で音声が記録されているDVDを、劇場やコンサートホールのような臨場感で楽しむことができます。サラウンド音声は、本機のOPTICAL OUT端子から出力されます。
光デジタル端子のついたアンプと6個のスピーカー（フロント、リア、センター、サブウーファー）を使うと、ご家庭に居ながら、さらに高い再現性を楽しむことができます。

DVP-FX1をご使用の場合

本体のLINE SELECTスイッチを「OUT」にしておいてください。

ご注意

MPEGオーディオ方式で7.1チャンネルの音声が記録されているディスクを再生すると、音声は5.1チャンネルにダウンミックスされます。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

必要な接続コード

光デジタル接続コード*（別売り：1本）



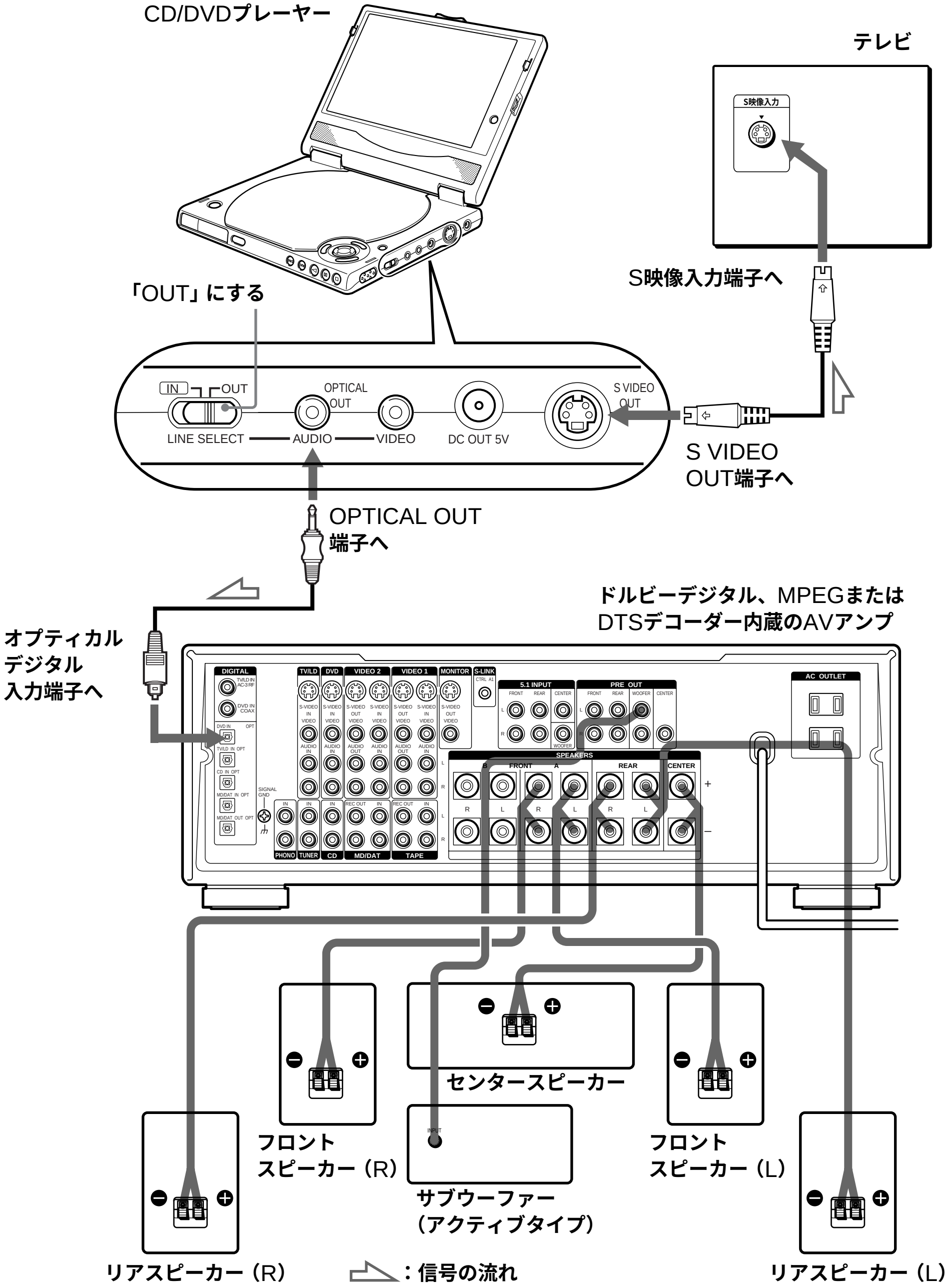
S映像コード（別売り：1本）



* OPTICAL OUT端子に接続するときは、オーディオ用光デジタル接続コード（別売り）を使ってください。詳しくは次ページをご覧ください。

ご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。


CD/DVDプレーヤー
テレビ
S映像入力
S映像入力端子へ
「OUT」にする
IN
OUT
LINE SELECT
OPTICAL
OUT
AUDIO
VIDEO
DC OUT 5V
S VIDEO
OUT
S VIDEO
OUT端子へ
OPTICAL OUT
端子へ
ドルビーデジタル、MPEGまたは
DTSデコーダー内蔵のAVアンプ
オプティカル
デジタル
入力端子へ
DIGITAL
TV/LD
DVD
VIDEO 2
VIDEO 1
MONITOR
S-LINK
5.1 INPUT
PRE OUT
AC OUTLET
SPEAKERS
FRONT
REAR
CENTER
PHONO
TUNER
CD
MD/DAT
TAPE
センタースピーカー
フロント
スピーカー（R）
サブウーファー
（アクティブタイプ）
フロント
スピーカー（L）
リアスピーカー（R）
：信号の流れ
リアスピーカー（L）

設定をする

接続した機器に合わせて、本機の設定をします。
設定を変えるには、設定画面を使います。詳しくは83ページをご覧ください。

■ ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき Ⓐ

設定画面の「オーディオ設定」で、「音声デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」に設定してください（99ページ）。

■ MPEGデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき（DVP-FX1のみ）Ⓑ

設定画面の「オーディオ設定」で、「音声デジタル出力」の「MPEG」を「MPEG」に設定してください（100ページ）。

■ DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器と接続するとき Ⓒ

設定画面の「オーディオ設定」で、「音声デジタル出力」の「DTS」を「入」に設定してください（100ページ）。



ご注意

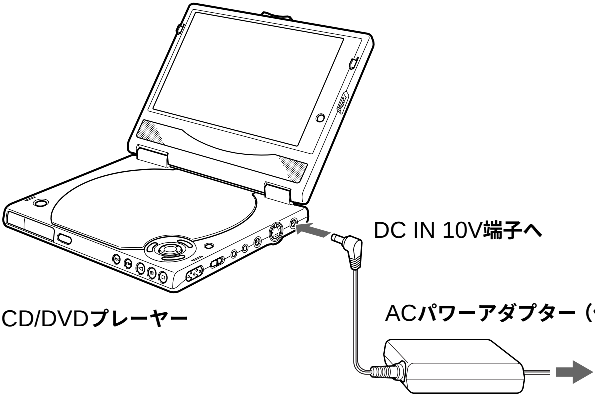
- **ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にしないでください。**
- **MPEGデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「MPEG」を「MPEG」にしないでください。**
- **DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器をつながないときは、「DTS」を「入」にしないでください。**

ACパワーアダプターをつなぐ

電源コードはすべての接続が終わってから差し込んでください。

1 **電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。**

2 **ACパワーアダプターを本機に、電源コードをコンセントにつなぐ。**



別売りのバッテリーパックでも本機を使用できます

「バッテリーで使う」（次ページ）をご覧ください。

ご注意

電源プラグを抜くときは、再生を止めてください。再生中に電源プラグを抜くと、故障の原因となることがあります。

バッテリーで使う

充電したバッテリーパック（NP-FX1、別売り）を本機に装着すると、
AC電源につながなくても本機を使えます。

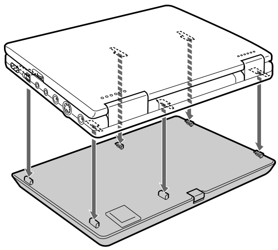
バッテリーの使用時間*

機種名	使用時間		
	DVDビデオ	ビデオCD	オーディオCD
DVP-FX1（液晶画面：入）	4.5	4.5	4.5
DVP-FX1（液晶画面：切）	8.0	8.0	8.0
DVP-F5	8.0	8.0	8.0

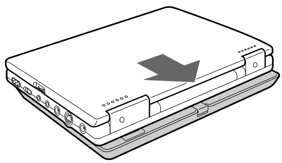
* 次の条件における、常温（20°C）での連続再生の最長の目安です。（単位：時間）
バッテリーの状態により、使用時間は短くなることがあります。
– パワーセーブ機能使用（DVP-FX1のみ）（97ページ）
– ヘッドホン使用
– 液晶画面の明るさを最小に設定（DVP-FX1のみ）（20ページ）

バッテリーパックを取り付ける

1 **図のように、本機底面のくぼみとバッテリーパックのツメを合わせる。**



2 **本機を矢印の方向にカチッと音がするまでずらす。**



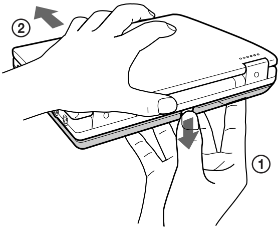
誤動作を防ぐために

バッテリーパックを取り付けるときは、本機の電源を切ってください。

ご注意

本機およびバッテリーの接続端子にさわらないでください。故障の原因になることがあります。

バッテリーパックを取りはずす



バッテリーパックのロックをはずし、本機をずらします。バッテリーパックを落とさないようにご注意ください。

ご注意

再生中にバッテリーパックをはずさないでください。

バッテリーを充電する

バッテリーパックを取り付けた状態で本機をAC電源につなぐと、バッテリーの充電が始まります。

1 バッテリーパックを取り付ける。

2 本機をAC電源につなぐ。

充電が始まります。本機の表示窓に「CHG」が点灯します。

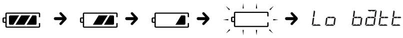
3 充電完了後、ACパワーアダプターと電源コードを取りはずす。

充電が完了すると、本機の表示窓に「」が点灯します。

充電時間は約8時間です。

バッテリーの残量を確認する

本機の表示窓で確認できます。



（満充電状態）　（バッテリー切れ）

「」が点滅したら、AC電源につないでバッテリーを充電してください。

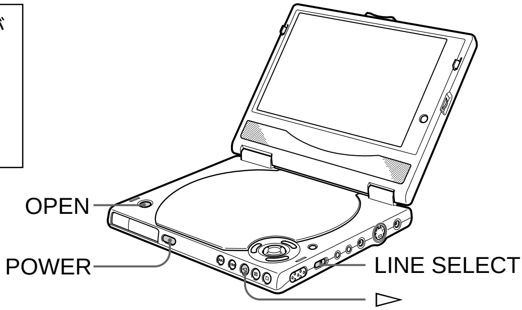
ご注意

- 充電中に本機の電源を入れると、充電は中断されます。本機の電源を切ると再開します。
- 充電中に▷を押すと、充電は中断され再生が始まります。本機の電源を切ると充電が再開します。
- 充電中に「」が点滅する場合、充電に問題があります。いったんACパワーアダプターとバッテリーパックを取りはずしてから、再度取り付けて充電してください。

ディスクを再生する DVD VIDEO CD CD

ディスクによっては、いくつかの操作が異なることや、禁止されていることがあります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

DVP-FX1をご使用の場合
本体のLINE SELECTスイッチを「OUT」にしておいてください。



1 **本体のPOWERボタンを押す。**

表示窓が点灯します。

ACパワーアダプターでの使用時は、リモコンの電源ボタンでも電源を入れられます。

本機をテレビにつないでいるときは

テレビの電源を入れ、本機の画像が映るようにテレビの入力を切り換えます。

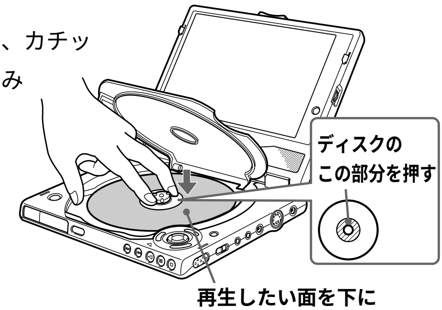
アンプを使うときは

アンプの電源を入れ、本機の音声が出るようにアンプの入力を切り換えます。

2 **OPENボタンを押してディスクぶたを開く。**

3 **ディスクをはめ込む。**

ディスクの中央を指で押して、カチッと音がするまで静かにはめ込みます。



4 **ディスクぶたを閉じて、▷を押す。**

再生が始まります（ふつうの再生）。本体、テレビ、またはアンプで音量を調節します。

手順4の後に

■ DVDを再生しているとき
DVDによっては、タイトルメニューやDVDメニューが表示されることがあります。詳しくは41ページをご覧ください。

■ ビデオCDを再生しているとき
ビデオCDによっては、画面にメニューが表示されることがあります。そのときは、表示されたメニュー画面（選択画面）にしたがって操作をして再生します（PBC再生）。PBC再生については、43ページをご覧ください。

バッテリーで使うときは

リモコンの電源ボタンで本機の電源を入れることはできません。ただし、リモコンで電源を切った後10分以内ならば、リモコンで電源を入れられます。

CDのDTS音声を再生するときのご注意

- DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器につないでいないときはDTS音声を再生しないでください。「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」の「DTS」を「切」に設定していても、DTS音声が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- CDのDTS音声を再生するときは、コントロールメニュー画面の「音声」を「ステレオ」に設定してください（59ページ）。「1/L」または「2/R」に設定していると、光デジタル接続コードでつないだときに音が出ません。
- CDのDTS音声を再生するとき、音声コードでつないだときに異音が出ることがあります。耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがないようご注意ください。

DVDのDTS音声を再生するときのご注意

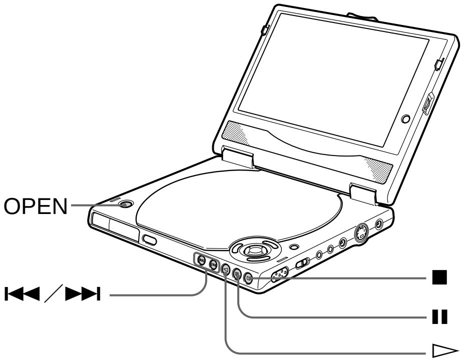
DTS音声信号は光デジタル接続コードでつないだときのみ出力されます。音声コードでつないだときには出力されません。

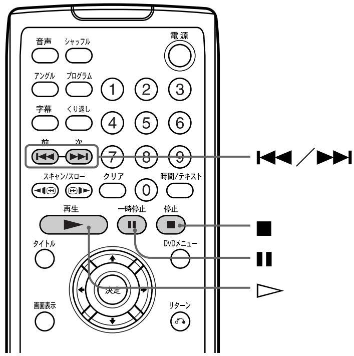
- DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないでいるときは、「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」の「DTS」を「入」に設定しないでください。「DTS」を「入」に設定すると、異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりします。
- 「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」の「DTS」を「切」に設定していると、光デジタル接続コードでつないで、DVDのDTS音声を再生しても音が出ません。

ご注意

- 停止中、または一時停止中、CD再生中に、15分以上本体またはリモコンを操作しないと、自動的にスクリーンセーバーが作動します。▷を押すとスクリーンセーバーが消えます。スクリーンセーバーについて詳しくは、91ページをご覧ください。
- 再生中に電源を切らないでください。メニュー設定が解除されることがあります。電源を切るときは、最初に■を押して再生を停止させてから、POWERボタンを押してください。
- 次の場合、電源が自動的に切れます（オートパワーオフ機能）。
  – ディスクが再生されていないとき
  – 本体やリモコンの操作を30分以上行わなかったとき

いろいろな操作方法





こんなときは	こうする
止める	■を押す
途中で止める	❚❚を押す
途中で止めたあと、つづきを再生する	❚❚または▷を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶|を押す
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	|◀◀ を押す
ディスクを取り出す	OPENを押す

コントロールメニュー画面を使うと、プログラム再生などいろいろな再生が楽しめます。コントロールメニュー画面の操作については、49ページをご覧ください。

見たいところや聞きたいところをさがす

DVD VIDEO CD CD

再生をしながら早送りや早戻しをして、
見たいところや聞きたいところをさがしたり、
スロー再生をすることができます。

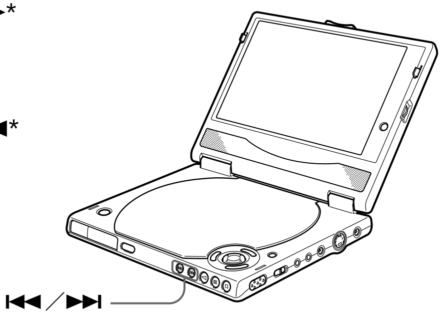
ご注意

DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている
場合があります。

見たいところや聞きたいところをさがす（サーチ）

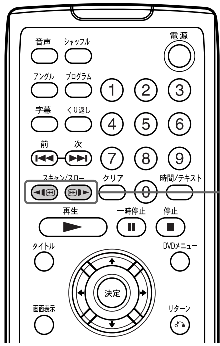
再生方向にサーチするときは、再生中に本体の
▶▶Iを押し続けます。再生の速さが早送り1▶▶*
になります。
逆方向にサーチするときは、再生中に本体の
I◀◀ を押し続けます。再生の速さが早戻し1◀◀*
になります。
見たいところや聞きたいところになったら、
ボタンを離します。

* 早送り1▶▶、早戻し1◀◀については、
次のページをご覧ください。



早送り／早戻しをして見たいところや聞きたいところをさがす（スキャン）

再生中に早送りするには⏩❚►を、早戻しをするには◄❚⏪を押します。見たいところや聞きたいところになったら、▷を押して普通の再生に戻します。
スキャン中に◄❚⏪または⏩❚►を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。3種類の速さを選ぶことができます。
ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。



◄❚⏪ / ⏩❚►

再生方向

x2►（DVD/CDのみ）→ 早送り1►► → 早送り2►►

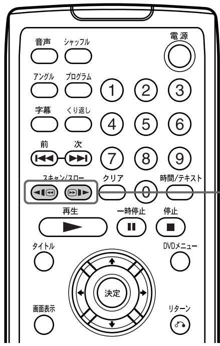
逆方向

x2◄ (DVDのみ）→ 早戻し1◄◄ → 早戻し2◄◄

x2◄/x2►は通常の約2倍の速度で再生します。
早戻し1◄◄/早送り1►►より、早戻し2◄◄/早送り2►►のほうが、高速で再生します。

スロー再生をして見たいところをさがす DVD VIDEO CD

この機能はDVDまたはビデオCDのみで使えます。
一時停止中に◄❚⏪または⏩❚►を押します。
見たいところや聞きたいところになったら、▷を押すと普通の再生に戻ります。
スロー再生中、◄❚⏪または⏩❚►を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。



◄❚⏪ / ⏩❚►

再生方向

スロー2❚► ↔ スロー1❚►

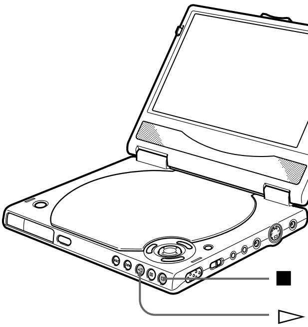
逆方向（DVD **のみ**）

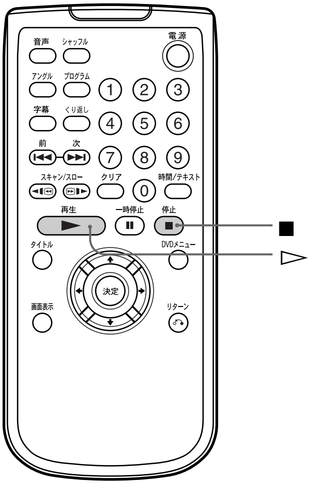
スロー2◄❚ ↔ スロー1◄❚

スロー1◄❚/スロー1❚►よりスロー2◄❚/スロー2❚►のほうが、低速で再生します。

再生を止めたところから再生する（リジューム再生） DVD VIDEO CD CD

再生を止めたあと、表示窓に「RESUME」が表示されると、本機に再生を止めたところが記録されます。このときは、そのつづきから再生できます。ディスクぶたを開けない限り、本機の電源を切っても、リジューム再生は使えます。





1 ディスクの再生中、■を押して再生を止める。

表示窓に「RESUME」と表示されます。また、画面には「次に再生するときは今のつづきから再生します　始めから再生するにはもういちど 停止 を押してください」と表示されます。

「RESUME」が表示されないときは

リジューム再生はできません。

2 ▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ディスクを最初から再生したいときは

停止中に再生時間が表示されているとき、■を押して再生時間表示を消してから、▷を押します。

ご注意

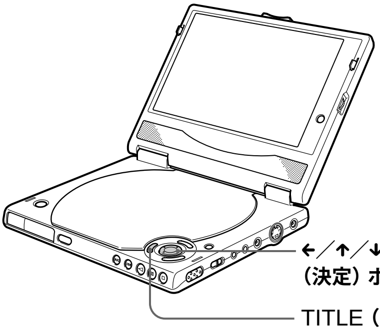
- DVDによってはリジューム再生ができない場合があります。
- シャッフルまたはプログラム再生では、リジューム再生はできません。
- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消えます。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – プレイモードを変えたとき
  – タイトルやチャプター、トラックを選んでから、再生を始めたとき
  – 設定画面で設定を変更したとき
  – ACパワーアダプターを取りはずしたとき
  – バッテリーパックを取りはずしたとき

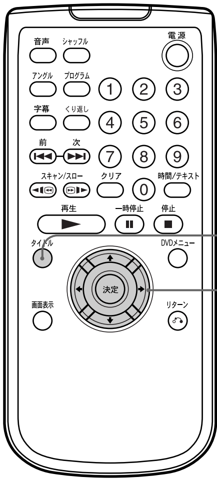
DVDのメニューを使う DVD

DVDには、タイトルメニューや、DVDメニューのような
DVD独自のメニューが記録されているものがあります。

タイトルメニューを使う

DVDには、複数の映像や曲が記録されたものがあります。これらの映像や曲をタイトルといいます。複数のタイトルがあるDVDを再生するときは、タイトルメニューで好きなタイトルを選べます。





1 タイトルボタンを押す。

タイトルメニューが表示されます。
タイトルの内容はディスクによって異なります。

2 再生したいタイトルを←／↑／↓／→で選ぶ。

DVDによってはリモコンの数字ボタンでタイトルを選べるものもあります。

3 決定ボタンを押す。

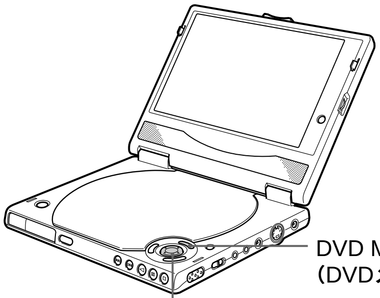
選んだタイトルの再生が始まります。

ご注意

- DVDによってはタイトルを選ぶことが禁止されている場合があります。
- DVDによっては「タイトルメニュー」のことを「メニュー」または「タイトル」と表示するものがあります。また決定ボタンを押すことを、「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

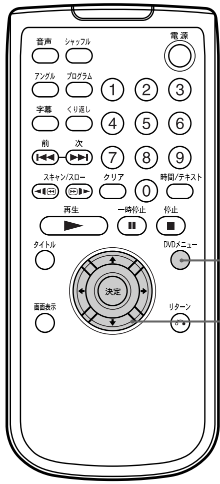
DVDメニューを使う

DVDには、ディスクの内容をメニューで選択できるものがあります。このようなDVDを再生するときは、再生したい項目、表示したい字幕の言語、聞きたい音声の言語などをDVDメニューで選べます。



DVD MENU（DVD**メニュー**）**ボタン**

←／↑／↓／→／ENTER（**決定**）**ボタン**



DVD**メニューボタン**

←／↑／↓／→／決定ボタン

1 DVD**メニューボタンを押す。**

DVDメニューが表示されます。DVDメニューはDVDにより異なります。

2 **選びたい項目を←／↑／↓／→で選ぶ。**

DVDによってはリモコンの数字ボタンで項目を選べるものもあります。

3 **別の項目に変更したいときは、手順2を繰り返す。**

4 **決定ボタンを押す。**

DVDメニューで表示される言語を変えるときは

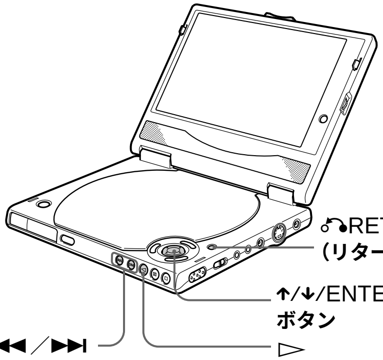
設定画面の「言語設定」の「DVDメニュー言語」で変更できます。詳しくは87ページをご覧ください。

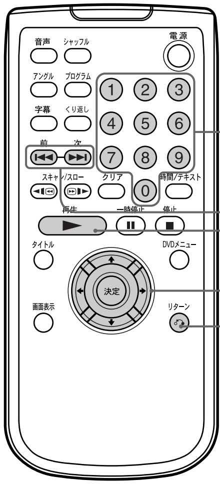
ご注意

DVDによっては「DVDメニュー」のことを「メニュー」と表示するものがあります。

プレイバックコントロール機能を使う（PBC再生） VIDEO CD

PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）では、PBC（プレイバックコントロール）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、画面に表示される選択用のメニューにしたがって、再生を進めていくことです。
PBC再生で使うボタンは、数字ボタンおよび決定、⏮、⏭、↑／↓、↶リターンです。
操作の方法はビデオCDによって異なることがありますので、ビデオCDに付属の説明書もあわせてご覧ください。





1 「ディスクを再生する」（34ページ）の手順1から手順4を行って、PBC対応ビデオCDの再生を始める。

2 選択用のメニュー画面の中で行いたい（再生したい）項目の番号を選ぶ。

↑／↓ボタンで項目の番号を選びます。リモコンの数字ボタンで項目の番号を選ぶこともできます。

3 決定ボタンを押す。

4 画面に表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

選択用のメニュー画面に戻るには

⤺リターンまたは⏮、⏭ボタンを押す。

PBC機能を使わないで再生するときは

次の2つの方法があります。

- 停止中、⏮または⏭を押して再生したいトラックを選んでから、▷または決定ボタンを押す。
- 停止中、リモコンの数字ボタンで再生したいトラック番号を押してから、▷または決定ボタンを押す。

画面上に「PBCを切って再生します」が表示され、ふつうの再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。

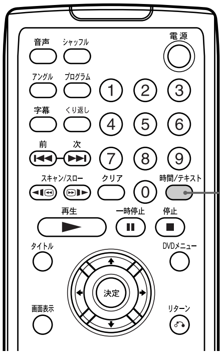
PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

ご注意

ビデオCDによっては手順3で決定ボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。

表示窓の見かた

表示窓を使って、ディスクの残り時間や、DVD内の全タイトル数、CD/ビデオCDの全トラック数などを調べることができます。



DVDを再生中のとき

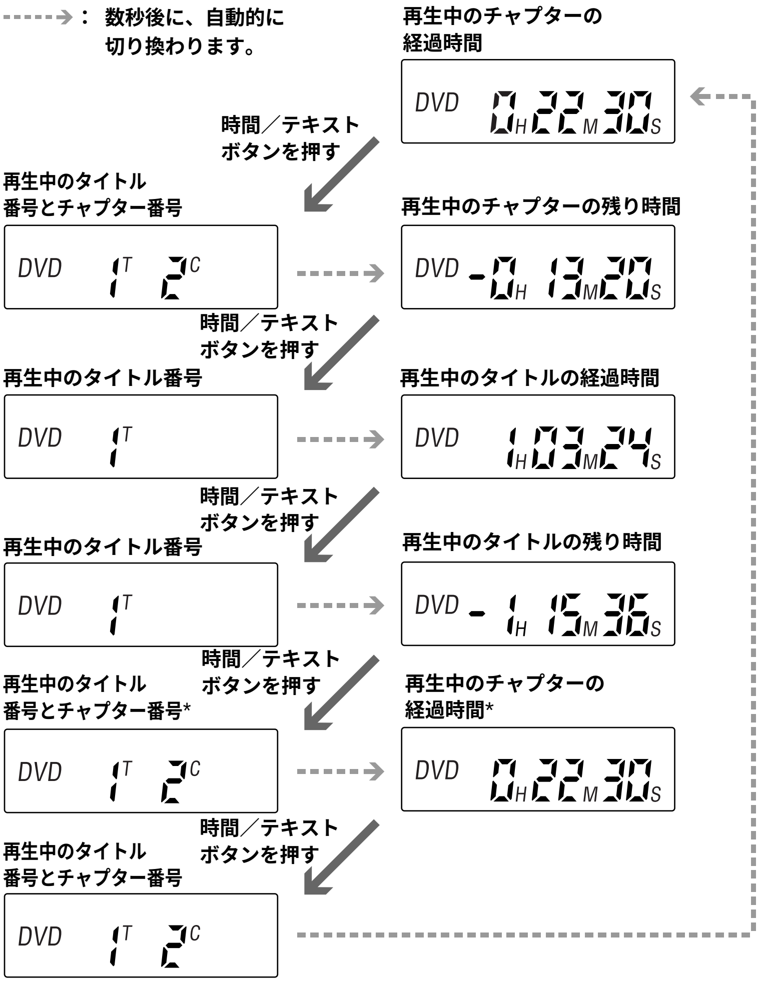
再生中の表示窓



再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間／テキストボタンを押す。

時間／テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。



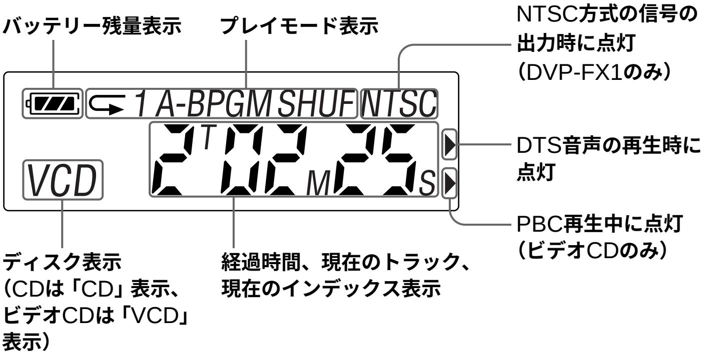
* DVDテキストが画面上に表示されます。

ご注意

- DVDによってはチャプター番号や時間が表示されない場合や、表示窓の表示を変えられない場合があります。
- シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、タイトル経過時間、タイトルの残り時間は表示されません。

CD/ビデオCDを再生中のとき VIDEO CD CD

再生中の表示窓



ビデオCDでPBC再生しているときは

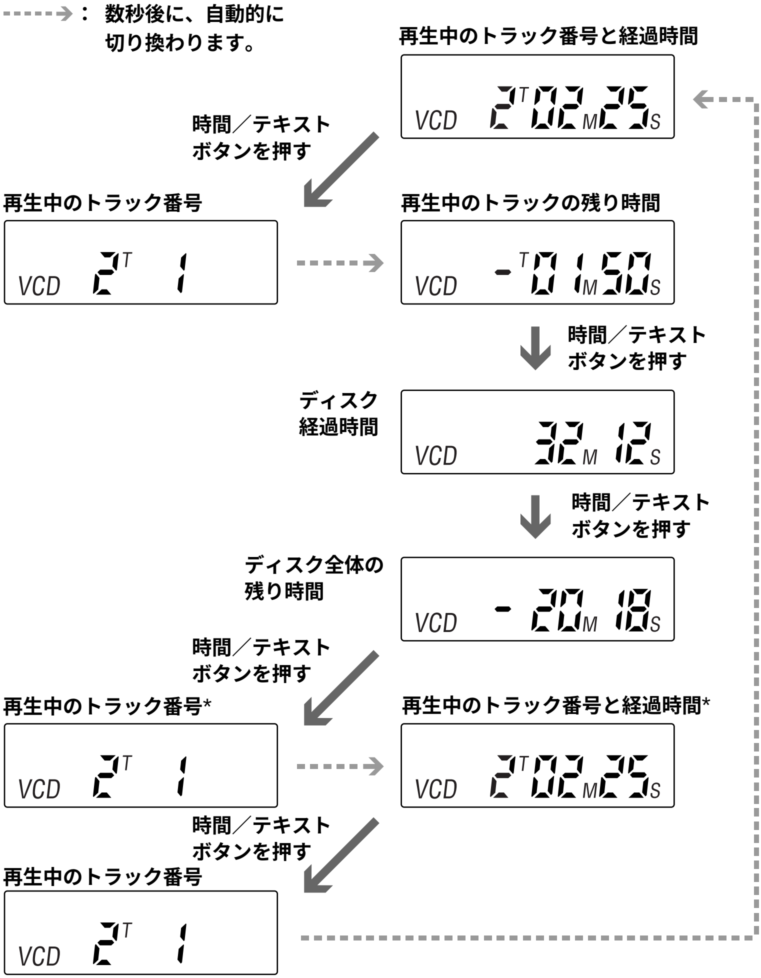
トラック番号、インデックス番号の代わりに再生中のシーン番号が表示されます。このとき時間／テキストボタンを押しても表示は変わりません。

再生する

再生の残り時間を調べる

再生中、リモコンの時間／テキストボタンを押す。

時間／テキストボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。



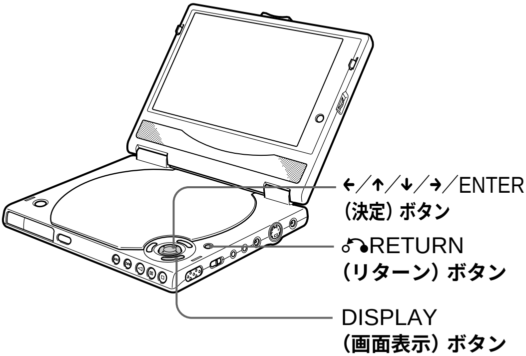
* CDテキストが画面上に表示されます。

ご注意

シャッフル再生またはプログラム再生をしているときは、ディスク経過時間、ディスク全体の残り時間は表示されません。

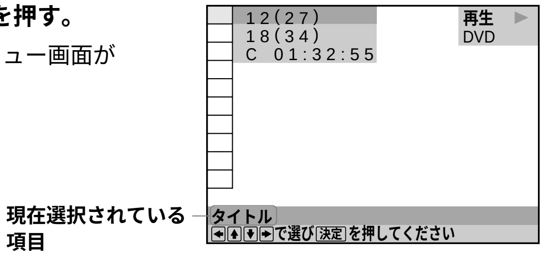
コントロールメニューを使う DVD VIDEO CD CD

コントロールメニュー画面を使って映像や曲を探したり、好みの順で再生したり、アングルを変えたり、デジタルシネマサウンドの設定をしたりできます。
ディスクによって操作できる機能が異なります。
コントロールメニューのそれぞれの項目について詳しくは、52～82ページをご覧ください。

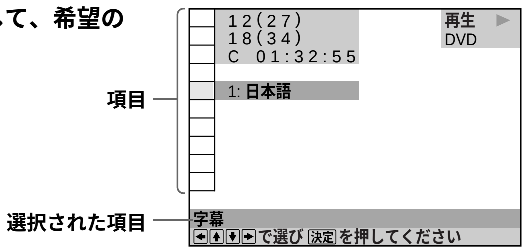




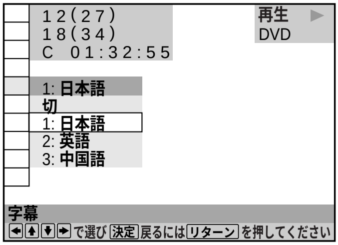
1 画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が出ます。



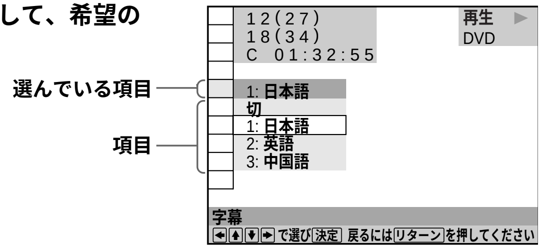
2 ↑／↓ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。



3 **決定ボタンを押す。**



4 **↑／↓ボタンを押して、希望の項目を選ぶ。**



5 **決定ボタンを押す。**



途中でやめるには

リターンボタンを押します。

他の項目を表示するには

画面表示ボタンを押すたびに、コントロールメニュー画面は次のように切り換わります。

→ コントロールメニュー画面1

↓

コントロールメニュー画面2
（表示された項目のうち、上から4番目から下の項目が変わります。）

↓

アドバンスト画面（68ページ）

↓

コントロールメニュー画面　切

コントロールメニュー画面の項目は、使用するディスクにより異なります。

直接選べる項目もあります

いくつかの項目は、リモコンのボタンを押して、直接選ぶことができます。この場合、選んだ項目だけが表示されます。リモコンを使った操作については、それぞれの項目の説明をご覧ください。

ご注意

コントロールメニュー画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

コントロールメニュー画面項目一覧

タイトル（DVD**のみ**）（54**ページ**）／

シーン（PBC**再生時のビデオ**CD**のみ**）（54**ページ**）／

トラック（**ビデオ**CD**のみ**）（54**ページ**）

チャプター（DVD**のみ**）（54**ページ**）／

インデックス（**ビデオ**CD**のみ**）（54**ページ**）

トラック（CD**のみ**）（54**ページ**）

インデックス（CD**のみ**）（54**ページ**）

タイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。

時間／テキスト（56、57、58**ページ**）

再生中のタイトル、チャプター、トラックおよびディスク全体の経過時間および残り時間を調べることができます。
タイムコードを入力して映像や曲を探すことができます。
ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを画面で見ることができます。

音声（59**ページ**）

DVDの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものがあります。このようなDVDでは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、音声が複数の記録方式（PCMまたはドルビーデジタル、MPEGオーディオ*、DTS）で記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。CDまたはビデオCDでは 、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーからその選んだ音を聞くことができます。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

字幕（DVD**のみ**）（62**ページ**）

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。この字幕は、再生中の好きなときに表示したり消したりできます。またDVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。

アングル（DVD**のみ**）（63**ページ**）

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの（マルチアングル）があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分であれば好きなアングルに切り換えながら見ることができます。



VES（DVDのみ）（65ページ）

ドルビーデジタルサラウンドなどのマルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。
フロントスピーカーしかつないでいないときでも、バーチャルエンハンストサラウンド（VES）機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、仮想サラウンドをお楽しみいただけます。



アドバンスト（DVDのみ）（68ページ）

ビットレートや再生中のディスクが読んでいる位置（レイヤー）についての情報を見ることができます。



カスタム視聴制限（70ページ）

暗証番号を登録することにより、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。
視聴年齢制限（92ページ）とカスタム視聴制限は同じ暗証番号を使います。



設定（83ページ）

設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また DVD を再生するときの、字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目の詳しい内容は87～100ページをご覧ください。



プログラム（73ページ）

タイトルやチャプター、トラックを選んで好きな順に再生できます。



シャッフル（77ページ）

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、選ぶたびに変わります。



リピート（79ページ）

ディスク全体（全タイトル／全トラック）または1つのタイトル／チャプター／トラックだけを繰り返し再生できます。

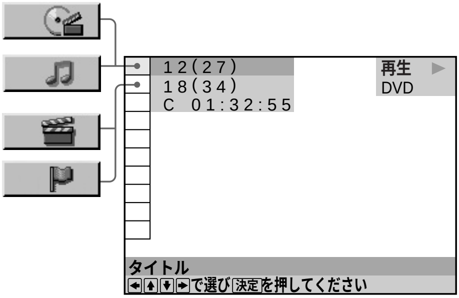


A-Bリピート（81ページ）

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。

再生するタイトル／チャプター／トラック／インデックス／シーンを選ぶ DVD VIDEO CD CD

タイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンを選んで映像や曲を探すことができます。



画面表示ボタンを押したあと、「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選びます。
DVDを再生しているときは、「タイトル」と「チャプター」が表示されます。
ビデオCD/CDを再生しているときは、「トラック」と「インデックス」が表示されます。ビデオCDでPBC再生をしているときは、「シーン」が表示されます。

1 **↑／↓で「タイトル」または「チャプター」、「トラック」、「インデックス」、「シーン」を選ぶ。**

「＊＊（＊＊）」が選ばれます（＊＊は任意の数字）。
かっこ内の数字はタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーンの総数です。



2 **→または決定ボタンを押す。**

「＊＊（＊＊）」が「−−（＊＊）」に変わります。



3 数字ボタンでタイトルまたはチャプター、トラック、インデックス、シーン の数字を選んで、決定ボタンを押す。

選んだ場所の再生が始まります。入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

選択を途中でやめるには

リターンボタンを押します。

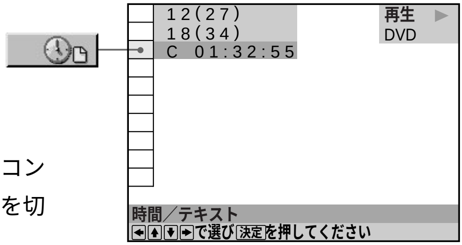
ご注意

- 表示されるタイトル、チャプター、トラックの数字はディスクに記録されているタイトル、チャプター、トラックの数字です。
- ビデオCDのPBC再生中はインデックスの数字は表示されません。

経過時間と残り時間を見る

DVD VIDEO CD CD

再生中のタイトル、チャプター、トラックの経過時間と残り時間、ディスク全体の経過時間と残り時間を見られます。



画面表示ボタンを押します。そのあと、リモコンの時間／テキストボタンを押して、時間表示を切り換えます。
DVDテキストやCDテキストを見ることもできます。58ページをご覧ください。

DVDを再生中

■時間/テキスト

- C　＊＊：＊＊：＊＊：再生中のチャプターの経過時間
- C－＊＊：＊＊：＊＊：再生中のチャプターの残り時間
- T　＊＊：＊＊：＊＊：再生中のタイトルの経過時間
- T－＊＊：＊＊：＊＊：再生中のタイトルの残り時間

ビデオCDをPBC再生中

■時間/テキスト

- ＊＊：＊＊：再生中のシーンの経過時間

ビデオCD（PBC再生中を除く）かCDを再生中

■時間/テキスト

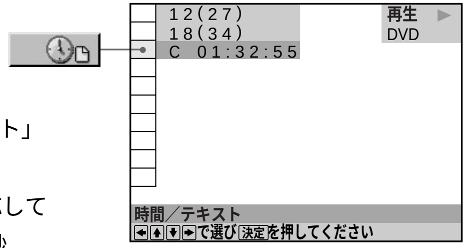
- T　＊＊：＊＊：再生中のトラックの経過時間
- T－＊＊：＊＊：再生中のトラックの残り時間
- D　＊＊：＊＊：再生中のディスクの経過時間
- D－＊＊：＊＊：再生中のディスクの残り時間

「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。ボタンを押すたびに時間表示が変わります。

タイムコードを使って場面を探す DVD

タイムコードを入力して場面を探すことができます。

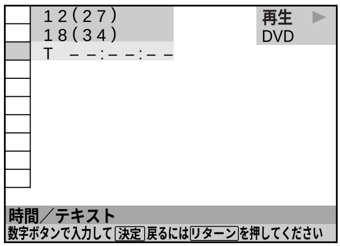


画面表示ボタンを押したあと、「時間/テキスト」を選びます。
タイムコードはおよそ実際の経過時間に対応しています。例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには2:10:20と入力します。

1 DVDを再生中に「C ＊＊：＊＊：＊＊」（再生中のチャプターの経過時間）を選ぶ。



2 →または決定ボタンを押す。
タイムコードが「T ——：——：——」に変わります。



3 数字ボタンを使ってタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。
選んだ場所の再生が始まります。
入力した数字を訂正するときは決定ボタンを押す前にクリアボタンを押してください。

入力を途中でやめるには

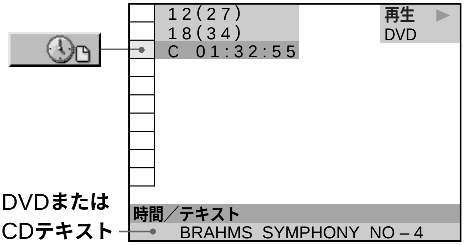
リターンボタンを押します。

ご注意

タイムコードを入力するときは、タイトルの経過時間を入力してください。

ディスクの情報を見る DVD VIDEO CD CD

ディスクに記録されたDVDテキストやCDテキストを、画面で見ることができます。
DVDテキストやCDテキストは、ディスクに記録されている情報なので変更することはできません。



画面表示ボタンを押します。そのあと、DVDテキストかCDテキストが表示されるまでリモコンの時間／テキストボタンを押します。
情報は画面の一番下に表示されます。
DVDまたはCDテキストはスクロール表示されません。したがって、すべての文字が表示されない場合があります。

「時間/テキスト」を直接選べます

リモコンの時間／テキストボタンを押します。DVDテキストやCDテキストの情報を表示するには、情報が表示されるまで繰り返し時間／テキストボタンを押します。

ご注意

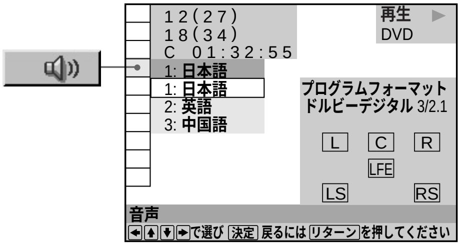
- 英語のDVDテキストのみ表示できます。
- DVDまたはCDテキストが記録されていないディスクのときは、「NO TEXT」と表示されます。
- 本機では、DVDまたはCDテキストの先頭の情報（タイトルなど）のみを表示します。
- DVDまたはCDテキストを表示すると、操作ガイドは表示されません。

音声を切り換える DVD VIDEO CD CD

DVDに、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているときは、再生中に好きな言語の音声に切り換えられます。また、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、MPEGオーディオ*、DTS）が記録されているDVDでは、再生中に音声記録方式を選ぶことができます。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

複数の音声トラックが記録されたCDまたはビデオCDでは、左右どちらかのチャンネルの音を選び、左右両方のスピーカーから選んだ音を聞くことができます。
このときの音声はモノラルになります。
例えばカラオケのビデオCDなどでは、音声チャンネルを切り換えることで、ボーカルのトラックを消し、伴奏だけを楽しめるものもあります。



画面表示ボタンを押したあと、「音声」を選びます。

■音声

DVDを再生中

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは、言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」（118ページ）を参照して選んでください。同じ言語が2個以上あるときは、音声記録方式（チャンネル数など）が異なります。現在選ばれている音声記録方式は、「プログラムフォーマット」に表示されます。

ビデオCDまたはCDを再生中

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- ステレオ：通常のステレオ再生
- 1/L：左チャンネルの音（モノラル）
- 2/R：右チャンネルの音（モノラル）

「音声」を直接選べます

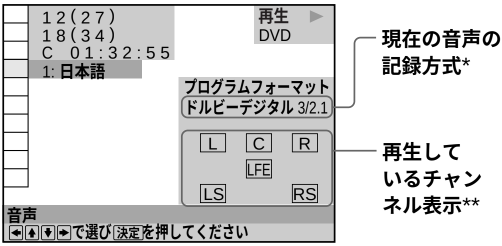
リモコンの音声ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が変わります。

ご注意

- DVDによっては複数の言語が記録されていても、切り換えが禁止されている場合があります。
- CD/ビデオCDでは、次の場合に通常のステレオ再生に戻ります。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – 本機の電源を切ったとき
- DVD再生中、次の場合に音声が切り換わることがあります。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – タイトルを変えたとき
  – ACパワーアダプターを抜いたとき
  – バッテリーを取りはずしたとき
- 設定画面の「オーディオ設定」で、「音声デジタル出力」の「DTS」を「切」に設定すると、DTS音声を含むDVDを再生しても、音声記録方式をDTSに切り換えることはできません。

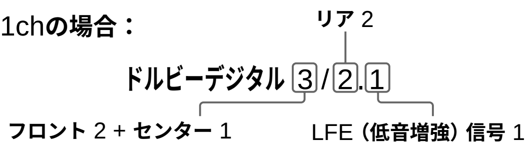
再生しているチャンネルを表示する DVD

「音声」を選ぶと、現在再生中のDVDに記録されているチャンネル数を表示することができます。
ドルビーデジタル方式では、モノラルから5.1chまでの信号がDVDに記録できます。記録されているチャンネル数はDVDにより異なります。



* 「PCM」または「ドルビーデジタル」、「MPEG」（DVP-FX1のみ）、「DTS」が表示されます。「ドルビーデジタル」のときは音声の含まれるチャンネルが下記のように数字で表示されます。

ドルビーデジタル5.1chの場合：



** チャンネル表示はスピーカーの有無にかかわらず、再生中のトラックに記録されている信号を表します。各記号は次のチャンネルを表しています。

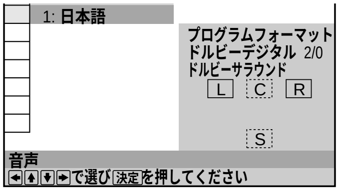
L： フロント（左）
R： フロント（右）
C： センター（モノラル）
LS： リア（左）
RS： リア（右）
S： リア（モノラル）: ドルビーサラウンド処理された2ch信号または、ドルビーデジタル信号のリア成分です。
LFE：LFE（Low Frequency Effect: 低音増強）信号

画面表示の例

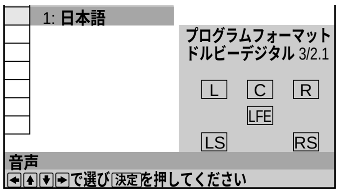
- PCM（ステレオ）のとき



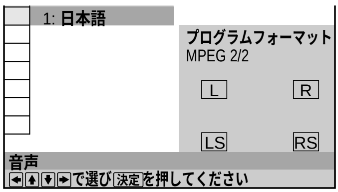
- ドルビーサラウンドのとき



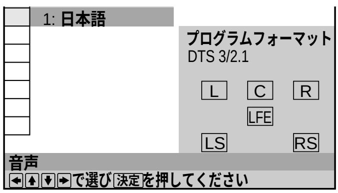
- ドルビーデジタル5.1チャンネルのとき
  ディスクにLFE信号が記録されているときのみ「LFE」が実線で表示されます。LFE信号が出力されていないときもプログラムフォーマットには、「LFE」が表示されます。



- MPEGオーディオのとき
  （DVP-FX1のみ）



- DTSのとき
  LFE（低音増強）信号出力の有無にかかわらずLFEが実線で表示されます。

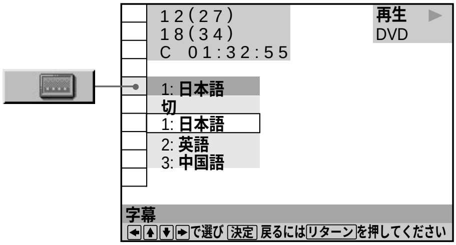


ご注意

LS、RS、Sのようにリア信号を含んでいないときは、VESの効果をかけて聞くことはできません（65ページ）。

字幕を表示する DVD

DVDの中には、字幕が記録されているものがあります。
字幕は再生中であれば、好きなときに表示したり消したりできます。また、DVDに複数の言語で字幕が記録されているときは、再生中の好きなときに切り換えられます。
例えば、字幕を表示して、語学の学習に役立てたりすることができます。



画面表示ボタンを押したあと、「字幕」を選びます。

■字幕

言語を選びます。選べる言語はDVDによって異なります。4桁の数字が表示されたときは言語コードを意味しています。「言語コード一覧表」(118ページ)を参照して選んでください。

「字幕」を直接選べます

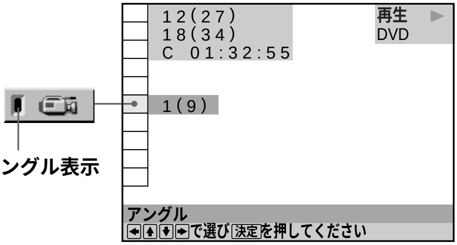
リモコンの字幕ボタンを押します。ボタンを押すたびに項目が切り換わります。

ご注意

- 字幕が記録されていないディスクでは、字幕を表示することはできません。
- DVDによっては字幕が記録されていても、字幕表示を禁止しているものがあります。
- DVDによっては、字幕を消すことを禁止している場合があります。
- 記録されている字幕の言語の種類や数はDVDによって異なります。
- DVDによっては複数の字幕が記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。
- DVD再生中、次の場合に字幕が切り換わることがあります。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – タイトルを変えたとき
  – ACパワーアダプターを抜いたとき
  – バッテリーを取りはずしたとき

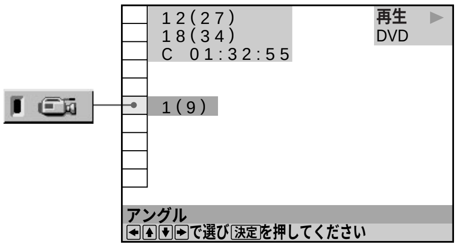
アングルを切り換える DVD

DVDの中には、同じ場面が複数のアングルで記録されているもの（マルチアングル）があります。このようなDVDでは、再生中、複数のアングルが記録されている部分で好きなアングルに切り換えながら見ることができます。
例えば、動いている電車のシーンの再生中に、電車の正面から見ていた景色を、左の窓や右の窓からの景色に、電車の動きを止めることなく切り換えて見ることができます。



画面表示ボタンを押したあと、「アングル」を選びます。
アングルを変えられるときはアングル表示が緑に点灯します。

1 「アングル」を選ぶ。



2 →を押す。

アングル番号が「－」に変わります。かっこ内の数字はアングルの総数を示します。



3 数字ボタンまたは↑／↓を使ってアングル番号を選び、決定ボタンを押す。

選んだアングルに切り換わります。



「アングル」を直接選べます

リモコンのアングルボタンを押します。ボタンを押すたびにアングルが切り換わります。

ご注意

- 切り換えられるアングルの数は、DVDによっても、場面によっても異なります。DVDのその場面に記録されているアングルの数だけ切り換えることができます。
- DVDによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

デジタルシネマサウンドの設定をする DVD

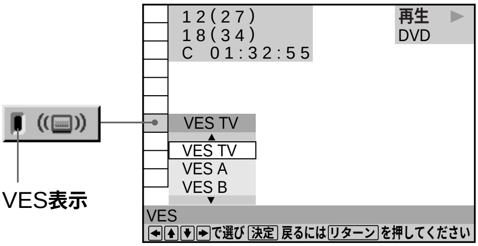
ドルビーデジタルまたはMPEGオーディオ*で、マルチチャンネルのサラウンド音声を楽しむことができます。
ステレオテレビのスピーカーやフロントスピーカーだけをつないでいるとき、バーチャル エンハンスト サラウンド（VES）機能で、ステレオ信号を3D立体音像処理することにより、リアスピーカーがなくても仮想サラウンドが楽しめます。

VES機能のサラウンドは、音声コードをつないだときに出力されます。光デジタル接続コードをつないだときには、サラウンド効果は得られません。
光デジタル接続コードをつないだときにVESを設定すると、次の信号が出力されません。

- ドルビーデジタル信号（設定画面の「オーディオ設定」で「音声デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」にしているとき）
- MPEGオーディオ信号

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

画面表示ボタンを押したあと、「VES」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときは、VES表示が緑に点灯します。



■VES
希望の項目を選びます。それぞれの項目について詳しくは、「各項目について」をご覧ください。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 切
- VES TV
- VES A
- VES B
- VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

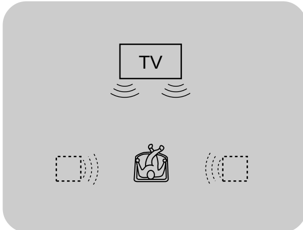
各項目について

切

2チャンネルのステレオの信号をフロントスピーカーから出力します。
DVDに記録されている5チャンネルのドルビーデジタル音声は、2チャンネルに変換されて出力されます。

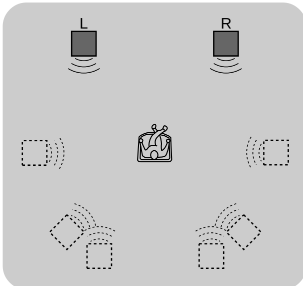
バーチャル　エンハンスト　サラウンド
VES（Virtual Enhanced Surround）TV

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、1組の仮想リアスピーカーを再現します。ステレオスピーカー内蔵テレビのように、左右のフロントスピーカーの距離が近いときに効果的です。



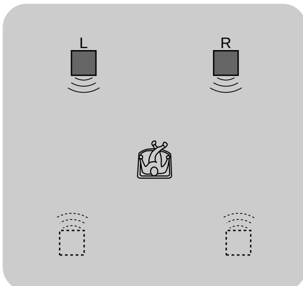
バーチャル　エンハンスト　サラウンド
VES（Virtual Enhanced Surround）A

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、3組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



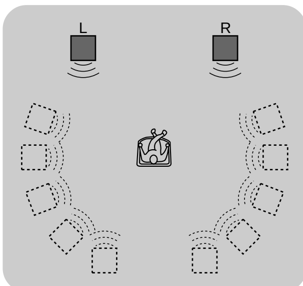
バーチャル　エンハンスト　サラウンド
VES（Virtual Enhanced Surround）B

3D立体音像処理により、実在するフロントスピーカー（L、R）の音から、1組の仮想スピーカーを下図のように再現します。



バーチャル　セミ　マルチ　ディメンション
VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION

3D立体音像処理により、フロントスピーカー（L, R）のみで仮想リアスピーカーを再現します。5組の仮想スピーカーは、リスニングポジションから約30˚の高さで下の図のように再現します。



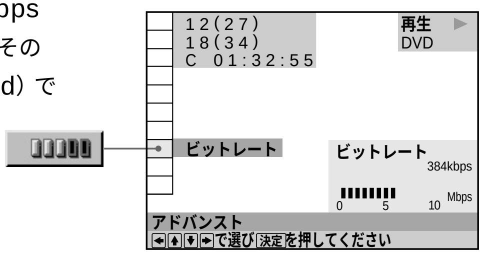
ご注意

- 項目を選んだときは一瞬音が途切れます。
- 「VES TV」または「VES A」、「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」では再生する信号にサラウンド成分が含まれていない場合、効果が得られません。
- 両方のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていないときは、「VES A」または「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでも効果がわかりにくいことがあります。
- 「VES TV」または「VES A」、「VES B」、「VIRTUAL SEMI MULTI DIMENSION」を選んでいるときは、つないでいる機器（アンプなど）のサラウンドの設定は「切」にしてください。
- ヘッドホンサラウンド機能とVES機能を同時に使うことはできません。ヘッドホンサラウンド機能が働いているとき、「VES」の設定は自動的に「切」になります（102ページ）。

再生の情報を見る DVD

ビットレートまたは、ディスクのレイヤーおよび光ピックアップの位置についての情報を見ることができます。
再生中、映像のおよそのビットレートがMbps（Mega bit per second）で、音声のおよそのビットレートがkbps（kilo bit per second）で表示されます。

画面表示ボタンを押したあと、「アドバンスト」を選びます。



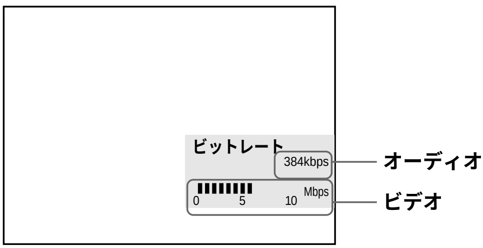
■ **アドバンスト**
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- <u>ビットレート</u>：ビットレートを表示する。
- レイヤー：レイヤーおよび光ピックアップのおよその位置を表示する。
- 消：アドバンスト画面を消す。

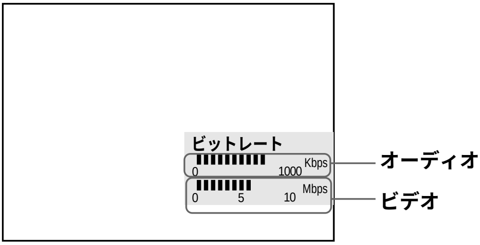
各項目の表示

画面表示ボタンを繰り返し押すと、アドバンストで選んだ「ビットレート」または「レイヤー」が表示されます。

ビットレート



MPEGオーディオ方式の音声を再生しているとき



ビットレートはDVDに圧縮して記録されている画像や音声の、1秒あたりの情報量を示す値です。画像の場合、単位はMbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。音声の場合、単位はkbps（kilo bit per second）です。

この値が大きいほど画像や音声の情報量は多くなりますが、必ずしも画質や音質とは直接関係しません。

レイヤー



再生中、光ピックアップのおよその位置を示します。

2層のDVDではどちらのレイヤーが読まれているかも示します（「Layer 0」または「Layer 1」）。

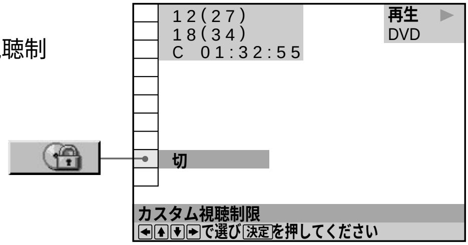
レイヤーについて詳しくは、117ページのDVDの項目をご覧ください。

ディスクを制限する（カスタム視聴制限）

DVD　VIDEO CD　CD

登録した暗証番号を使って、ディスクごとに本機での再生を禁止することができます。
登録した同じ暗証番号で、50枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。51枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。
視聴年齢制限（92ページ）でも、カスタム視聴制限と同じ暗証番号を使います。

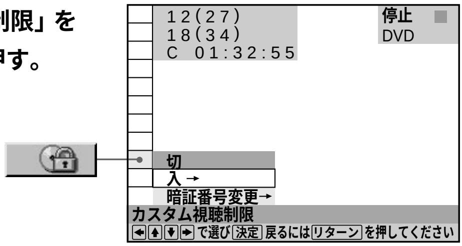
画面表示ボタンを押して、
「カスタム視聴制限」を選びます。



ディスクにカスタム視聴制限を設定する

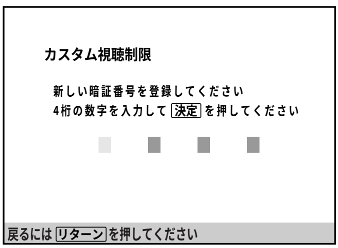
1 **設定したいディスクを入れる。**
ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2 **↑／↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。**



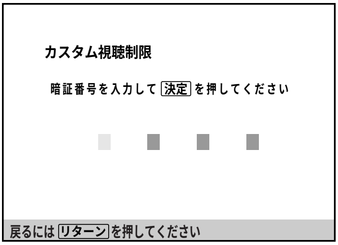
3 **↑／↓で「入→」を選んで、決定ボタンを押す。**

■ 暗証番号が登録されていないとき
暗証番号入力の画面が表示されます。



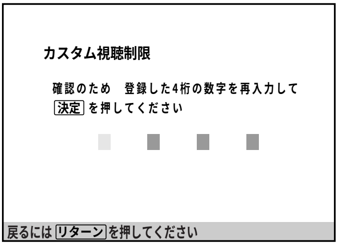
■ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号確認の画面が出ます。手順4をとばして手順5に進みます。



4 **4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

決定ボタンを押すと数字は「＊」に変わり、暗証番号確認の画面になります。



5 **暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

「カスタム視聴制限を設定しました」と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

通常の画面に戻すときは

リターンボタンを押します。

カスタム視聴年齢制限を解除するときは

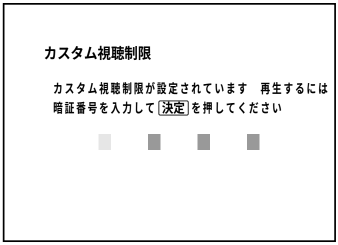
1 ↑／↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
2 ↑／↓で「切→」を選んで、決定ボタンを押す。
3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。

暗証番号を変更したいときは

1 ↑／↓で「カスタム視聴制限」を選んで、決定ボタンを押す。
2 ↑／↓で「暗証番号変更→」を選んで、決定ボタンを押す。
3 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
暗証番号変更の画面が表示されます。
4 新しい4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
5 確認のため、暗証番号を数字ボタンでもう1度入力し、決定ボタンを押す。

カスタム視聴制限が設定されているディスクを再生する

1 **ディスクを入れる。**
カスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 **4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**
再生が始まります。

暗証番号を忘れてしまったときは

カスタム視聴制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

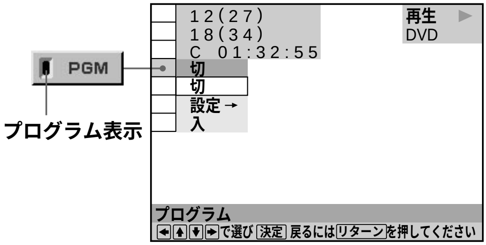
- カスタム視聴制限が設定されたディスクは、暗証番号を入力しないと再生することはできません。暗証番号がわからない場合は、OPENボタンを押してディスクを取り出してください。
- カスタム視聴制限が設定されたディスクを本機に入れると、表示窓に「CPC」が表示されます。再生するときは、上の手順を行ってください。

好きな順に再生する（プログラム再生）

DVD　VIDEO CD　CD

タイトルやチャプター、トラックを好きな順に選んでプログラムを作り、再生できます。最大99個のタイトルやチャプター、トラックがプログラムできます。

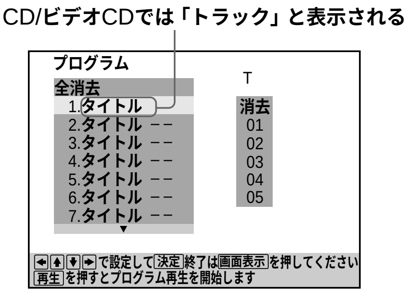
画面表示ボタンを押したあと、「プログラム」を選びます。
「入」を選んでいるときはプログラム表示が緑に点灯します。



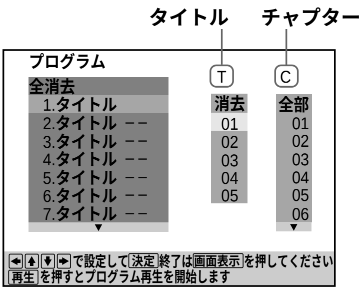
■プログラム
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。
- 切：ふつうの再生。
- 設定➔：プログラムを設定する。
- 入：プログラム再生。

プログラムを設定する

1 「プログラム」の「設定➔」を選ぶ。
プログラム設定画面が表示されます。



2 ➔を押す。
タイトルまたはトラック「01」が選ばれます。プログラムの最初のタイトルまたはトラックを設定します。

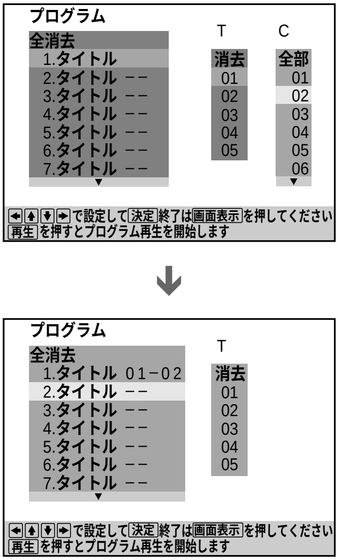


3 ↑／↓でプログラム再生したいタイトル/チャプター/トラックを選んで、決定ボタンを押す。

例えばタイトルまたはトラック「02」を選びます。（数字ボタンで選び、決定ボタンを押して選択することもできます。このとき選択した番号が画面に表示されます。）

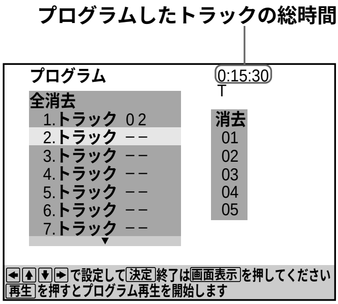
■ DVDのとき

タイトルとチャプターの両方が記録されている場合は、タイトルを選んでから、チャプターを選択する。



■ CD/ビデオCDのとき

ディスクに記録されているトラックの中から再生するトラックを選ぶ。



4 他に再生するタイトル/チャプター/トラックを設定したいときは、手順3を繰り返す。

設定したタイトル/チャプター/トラックが選んだ順に表示されます。

5 ▷を押す。

プログラム再生が始まります。

プログラム再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

プログラムの設定を変更するときは

1 手順2で、↑／↓を使って変更したいタイトル、チャプター、トラックのプログラム番号を選ぶ。

2 手順3の操作で新しい設定を入力する。

設定したプログラムを消すには

すべて消すときは、手順2で「全消去」を選びます。ひとつずつ消すときは、手順2で↑／↓を使って消したいプログラムを選んでクリアボタンを押すか、手順3で「消去」を選んだあと、決定ボタンを押します。

プログラム再生が終わっても、プログラムは残っています

▷を押すと、同じプログラムをもう1度再生します。

設定したプログラムで「リピート再生」や「シャッフル再生」もできます

プログラムを再生中に、コントロールメニュー画面の「リピート」または「シャッフル」を「入」にしてください。

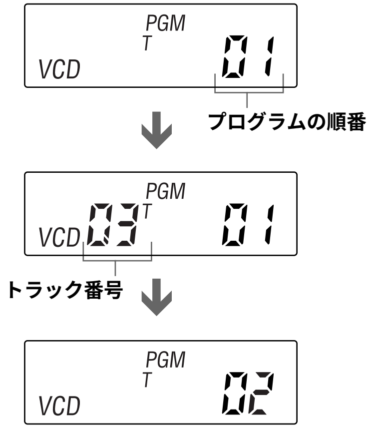
「プログラム」を直接選べます

リモコンのプログラムボタンを押します。

本体の表示窓を見ながらプログラム設定したいタイトルまたはチャプター、トラックを選ぶことができます

プログラム画面のかわりに、本体の表示窓を見ながらプログラム設定することもできます。

例えば、プログラム1にビデオCDのトラック3を設定したときは、下記のように表示窓に表示されます。



ご注意

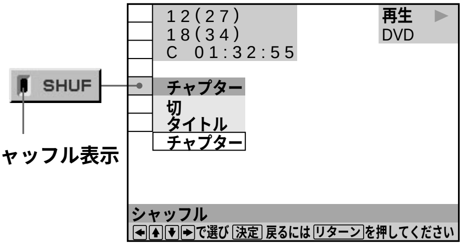
- タイトル/チャプター/トラックはディスクに記録されている数だけ画面に表示されます。
- 設定したプログラムは、次の場合に解除されます。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – 本機の電源を切ったとき
- DVDによってはプログラム再生ができない場合があります。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからプログラムを設定してください。

順不同に再生する（シャッフル再生）

DVD　VIDEO CD　CD

ディスク上のタイトル番号やトラック番号に関係なく、本機が自動的に順番を選んで、ひと通り再生します。再生する順番は、「シャッフル」を選ぶたびに変わります。

画面表示ボタンを押したあと、「シャッフル」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときはシャッフル表示が緑に点灯します。



■シャッフル

シャッフル再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」を「切」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- タイトル：タイトルを順不同にして再生します。
- チャプター：チャプターを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはCDで「プログラム」を「切」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- トラック：トラックを順不同にして再生します。

ビデオCDまたはCD、DVDで「プログラム」を「入」にして再生するとき

- 切：シャッフル再生しません。
- 入：タイトルまたはトラックをプログラム番号ごとに順不同にして再生します。

シャッフル再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

停止中でもシャッフル再生の設定ができます

「シャッフル」で項目を選んで▷ボタンを押します。
シャッフル再生が始まります。

「シャッフル」を直接選べます

リモコンのシャッフルボタンを押します。

ご注意

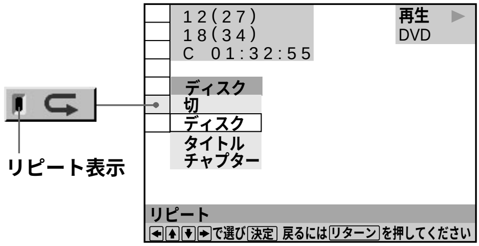
- シャッフル再生は、次の場合に解除されます。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – 本機の電源を切ったとき
- DVDによってはシャッフル再生ができない場合があります。
- 「チャプター」を選んだとき、ディスク中の200のチャプターまでシャッフル再生できます。
- ビデオCDのPBC再生時は、再生を止めてからシャッフル再生を設定してください。

繰り返し再生する（リピート再生）

DVD　VIDEO CD　CD

ディスクのすべてのタイトルまたはトラック、または1つのタイトル/チャプター/トラックを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせると、シャッフル再生やプログラム再生での順番で繰り返し再生します。
ビデオCDのPBC再生（43ページ）では、リピート再生できません。

画面表示ボタンを押したあと、「リピート」を選びます。「切」以外の項目を選んでいるときはリピート表示が緑に点灯します。



■リピート

リピート再生の設定を選びます。
お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

DVDで「プログラム」と「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのタイトルを繰り返し再生します。
- タイトル：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- チャプター：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはCDで「プログラム」および「シャッフル」を「切」にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- ディスク：すべてのトラックを繰り返し再生します。
- トラック：再生中のトラックを繰り返し再生します。

ビデオCDまたはCD、DVDで「プログラム」または「シャッフル」を「切」以外にして再生するとき

- 切：リピート再生しません。
- 入：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返し再生します。

リピート再生をやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

停止中でもリピート再生の設定ができます

「リピート」で項目を選んで▷ボタンを押します。
リピート再生が始まります。

「リピート」を直接選べます

リモコンのくり返しボタンを押します。

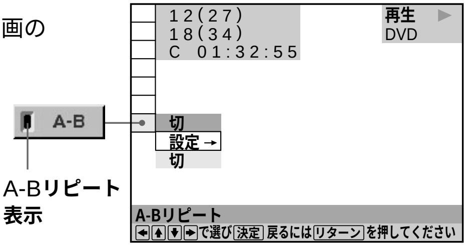
ご注意

- リピート再生は、以下の場合に解除されます。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – 本機の電源を切ったとき
- DVDによってはリピート再生ができない場合があります。

再生したい部分だけを繰り返す（A-Bリピート） DVD VIDEO CD CD

再生したい部分を指定して、繰り返し再生できます。語学学習や歌詞を覚えるときに便利です。
ビデオCDのPBC再生（43ページ）では、動画の再生中にだけできる操作です。

画面表示ボタンを押したあと、「A-Bリピート」を選びます。A-Bリピート中はA-B リピート表示が緑に点灯します。



A-B**リピート表示**

■A-B **リピート**

お買い上げ時は、下線の付いている項目に設定されています。

- 設定➔：繰り返す部分の始点（A点）と終点（B点）を設定します
- 切：A-Bリピート再生しません

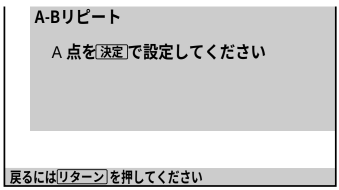
繰り返す部分を設定する

1 **「A-B リピート」を選び、決定ボタンを押す。**



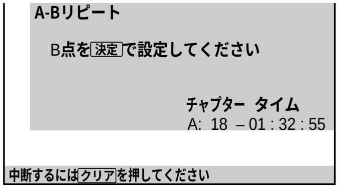
2 **「A-B リピート」の「設定➔」を選び、決定ボタンを押す。**

A-Bリピート設定画面が表示されます。



3 再生中に繰り返す部分の始点（A点）で決定ボタンを押す。

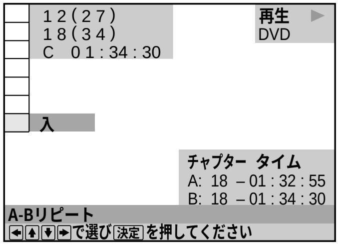
始点（A点）が設定されます。



4 繰り返す部分の終点（B点）でもう一度決定ボタンを押す。

指定した部分が表示され、指定した部分を繰り返し始めます。

A-Bリピート再生中は表示窓の「A-B」が点灯します。



A-Bリピートをやめるときは

リモコンのクリアボタンを押します。

ご注意

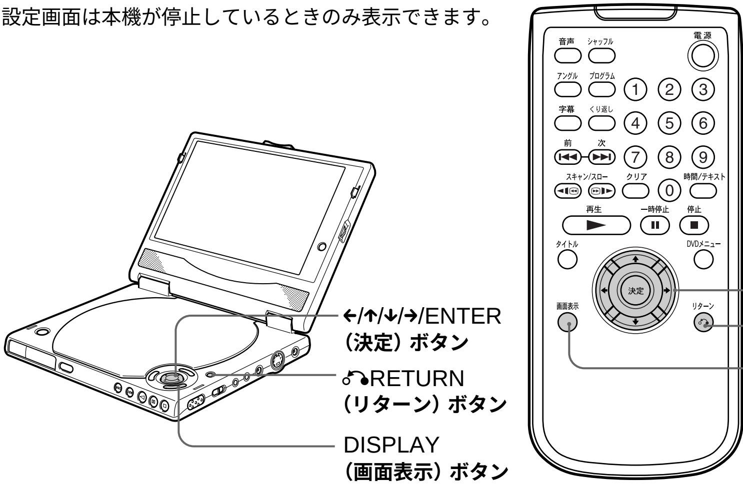
- A-Bリピートが設定できるのは1か所のみです。
- 設定したA-Bリピートは、次の場合に解除されます。
  – ディスクぶたを開けたとき
  – 本機の電源を切ったとき
- A-Bリピートを設定すると、シャッフル再生、リピート再生やプログラム再生は解除されます。
- DVD、ビデオCDの場面によっては、A-Bリピートの設定ができないことがあります。

設定画面を使う DVD VIDEO CD CD

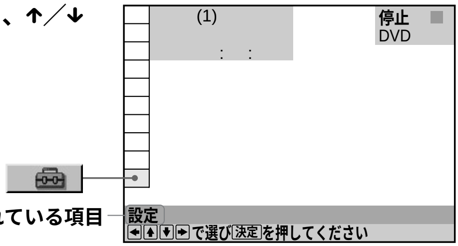
設定画面を使って、初期設定や画質や音質の調整、さまざまな出力の設定などができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語、視聴年齢制限の設定などもできます。設定画面の項目について詳しくは、86〜100ページをご覧ください。

ご注意

設定画面は本機が停止しているときのみ表示できます。

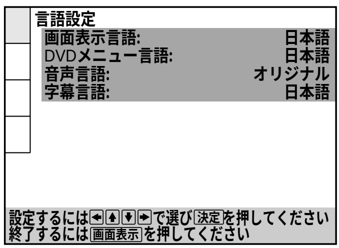


1 **画面表示ボタンを押して、↑／↓で「設定」を選ぶ。**



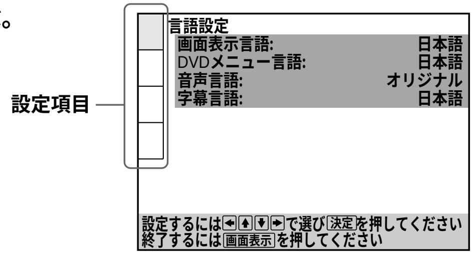
2 **決定ボタンを押す。**

設定画面が表示されます。



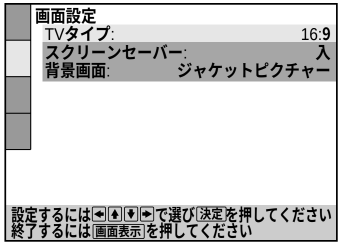
設定と調整

3 ↑／↓で設定項目を選ぶ。

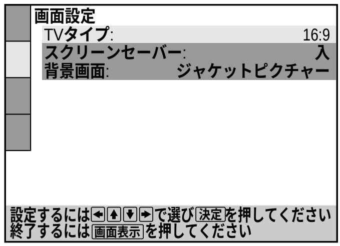


4 決定ボタンを押す。

設定項目が選ばれます。

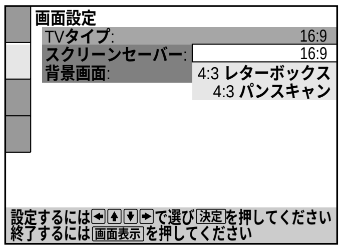


5 ↑／↓で項目を選ぶ。

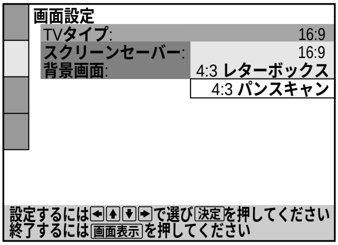


6 決定ボタンを押す。

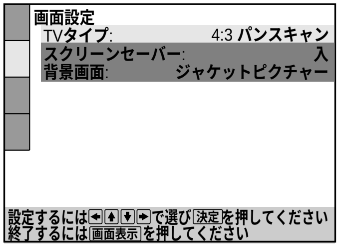
項目が選ばれます。



7　↑／↓で設定内容を選ぶ。



8　決定ボタンを押す。



9　画面表示ボタンを押す。

設定画面が消えます。

10　画面表示ボタンを繰り返し押して、画面表示を消す。

ひとつ前の画面に戻るには

リターンボタンを押します。

設定を途中でやめるには

画面表示ボタンを押します。

ご注意

設定画面の項目には、項目を選ぶ以外の操作が必要なものもあります。このような項目について詳しくは、次ページからの説明をご覧ください。

設定画面項目一覧表

お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

言語設定 (87ページ)

- 画面表示言語
  - 日本語
  - ENGLISH
- DVDメニュー言語
  - 日本語
  - 英語
  - 中国語
  - ドイツ語
  - フランス語
  - イタリア語
  - スペイン語
  - ポルトガル語
  - オランダ語
  - デンマーク語
  - スウェーデン語
  - フィンランド語
  - ノルウェー語
  - ロシア語
  - その他 ➡
- 音声言語
  - オリジナル
  - (DVDメニュー言語と同じ)
- 字幕言語
  - 日本語
  - 音声連動
  - (DVDメニュー言語と同じ)

画面設定 (90ページ)

- TV タイプ
  - 16:9
  - 4:3 レターボックス
  - 4:3 パンスキャン
- スクリーンセーバー
  - 入
  - 切
- 背景画面
  - ジャケットピクチャー
  - グラフィックス
  - 青
  - 黒

視聴設定 (92ページ)

- 自動再生
  - 切
  - タイマー
  - デモ 1
  - デモ 2
- 一時停止モード
  - 自動
  - フレーム
- 視聴年齢制限 ➡
- 音声トラック自動選定モード
  - 切
  - 入
- パワーセーブ (DVP-FX1のみ)
  - 切
  - 入

オーディオ設定 (98ページ)

- オーディオ DRC
  - スタンダード
  - テレビ
  - ワイドレンジ
- ダウンミックス
  - ドルビーサラウンド
  - ノーマル
- 音声デジタル出力
  - ドルビーデジタル
    - ダウンミックスPCM
    - ドルビーデジタル
  - MPEG (DVP-FX1のみ)
    - PCM
    - MPEG
  - DTS
    - 切
    - 入

表示言語や音声言語の設定（言語設定）

DVD VIDEO CD CD

言語設定画面では、画面や音声の言語を設定することができます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



設定画面で「言語設定」を選びます。

ご注意

- DVDに記録されていない言語を選んだときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます（「画面表示言語」を除く）。
- 「DVDメニュー言語」または「音声言語」、「字幕言語」で言語を選んでも、DVDによっては選んだ言語で表示されないことがあります。

■画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

- 日本語
- ENGLISH

■DVDメニュー言語

DVDに記録されているDVDメニューの言語を切り換えます。

- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、118ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■音声言語

DVDに記録されている音声の言語を切り換えます。

- オリジナル：ディスク内で優先されている言語
- 日本語
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、118ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

■字幕言語

DVDに記録されている字幕の言語を切り換えます。

- 日本語
- 音声連動*
- 英語
- 中国語
- ドイツ語
- フランス語
- イタリア語
- スペイン語
- ポルトガル語
- オランダ語
- デンマーク語
- スウェーデン語
- フィンランド語
- ノルウェー語
- ロシア語
- その他➔

「その他➔」を選んだときは、118ページの言語コード一覧表から言語番号を選んで数字ボタンで入力してください。

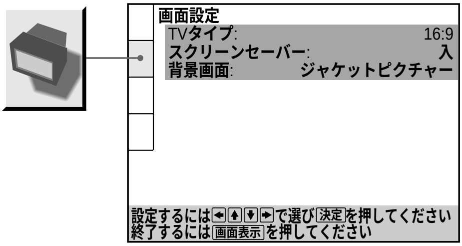
言語コードを選ぶと、次からは4桁の数字の言語コードが表示されます。

*「音声連動」を選ぶと、音声の言語に合わせて字幕の言語が切り換わります。

画像に関する設定（画面設定） DVD VIDEO CD CD

接続するテレビの形状などを設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「画面設定」を選びます。

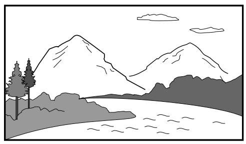


■ TVタイプ

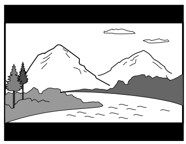
接続するテレビのアスペクト比および、通常のテレビでDVDのワイド画像を再生するときに出力する画面の形を設定します。

- 16:9：ワイドテレビまたは、ワイドモードのある通常のテレビで見るとき。
  また、液晶画面で見るとき。（DVP-FX1のみ）
- 4:3 レターボックス：通常のテレビで、ワイド画像を横長に表示して画面の上下には帯を入れるとき。
- 4:3 パンスキャン：通常のテレビに、ワイド画像の一部を自動的にカットして画面全体に表示するとき。

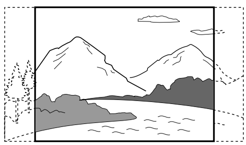
16:9



4:3 **レターボックス**



4:3 **パンスキャン**



液晶画面の画面モードを選ぶには（DVP-FX1のみ）

TVタイプの設定に合わせて、液晶画面の画面モードを選ぶことができます。
画面モードは、本体のDISPLAY MODEボタンで切り換えられます。詳しくは、「画面モードを選ぶ」（21ページ）をご覧ください。

ご注意

DVDによっては「4:3レターボックス」あるいは「4:3パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■スクリーンセーバー

一時停止または停止したままで15分たつか、CDを15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。これは画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。

- 入：スクリーンセーバーを使う。
- 切：スクリーンセーバーを使わない。

■背景画面

停止中やCD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

- ジャケットピクチャー：ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にする。
- グラフィックス：あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にする。
- 青：画面の背景色を「青」にする。
- 黒：画面の背景色を「黒」にする。

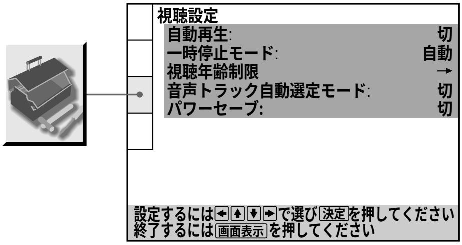
ご注意

「ジャケットピクチャー」を選んでいるときに、ジャケットピクチャーが記録されていないディスクを再生すると、「グラフィックス」の画像が自動的に表示されます。

視聴に関する設定（視聴設定）DVD VIDEO CD CD

視聴年齢制限などを設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

設定画面で「視聴設定」を選びます。



■ **自動再生**

コンセントをつないだときの動作を設定します。

- 切：「タイマー」、「デモ1」、「デモ2」を使わないで起動する。
- タイマー：電源が入ったとき、自動で再生を始める。
  別売りのタイマーを使って希望の時刻に再生を始めることができます。
  タイマーで時間を設定する前に、バッテリーパックを取りはずし、ACアダプターをつないで、本機の電源を切っておいてください。
- デモ1：デモンストレーション1を再生する。
- デモ2：デモンストレーション2を再生する。

■ **一時停止モード（DVDのみ）**

一時停止にしたときの画像のモードを設定します。

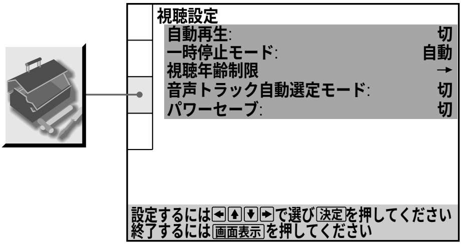
- 自動：大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られる。通常は「自動」にしておきます。
- フレーム：動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られる。

■ **視聴年齢制限**

暗証番号を登録して、視聴年齢制限のあるDVDの再生を制限する設定をします。視聴年齢制限とカスタム視聴制限（70ページ）は同じ暗証番号を使います。詳しくは「年齢による視聴制限をする」をご覧ください。

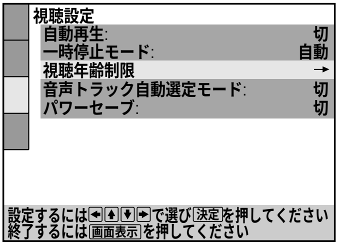
年齢による視聴制限をする DVD

DVDの中には、見る人の年齢によって視聴を制限できるものがあります。視聴年齢制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。



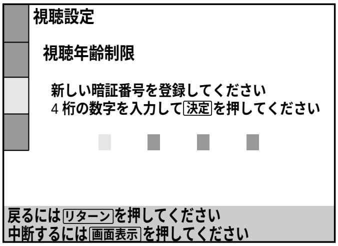
設定画面で「視聴設定」を選びます。

1 **↑／↓で「視聴年齢制限」を選んで、決定ボタンを押す。**



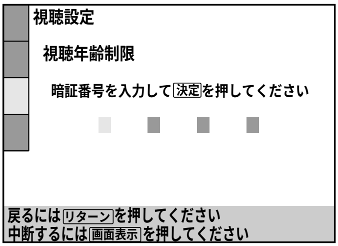
■ 暗証番号が登録されていないとき

暗証番号入力の画面が表示されます。



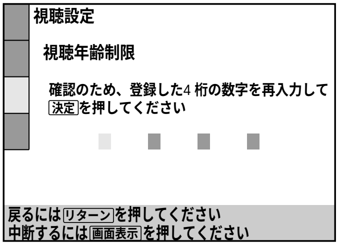
■ 暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号確認の画面が出ます。手順2をとばして手順3に進みます。



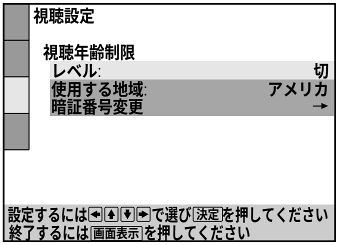
2 **4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

決定ボタンを押すと、数字は「＊」に変わり、暗証番号確認の画面になります。

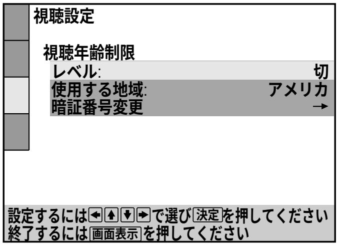


3 **暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。**

視聴制限のレベル設定、および暗証番号の変更の画面が表示されます。

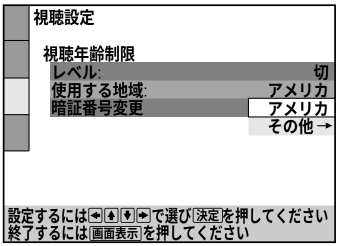


4 **↑／↓で「使用する地域」を選んで、→を押す。**

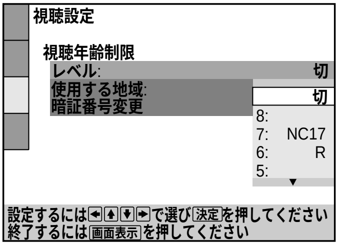


5 **↑／↓で視聴制限レベルの基準にする地域を選んで、→を押す。**

「その他→」を選んだときは、96ページの表を見て地域コードを数字ボタンで入力します。

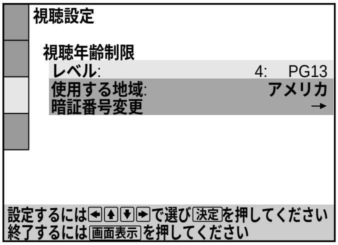


6 **↑／↓で「レベル」を選んで→を押す。**



7 **↑／↓で制限するレベルを選んで、決定ボタンを押す。**

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。



通常の画面に戻すときは

画面表示ボタンを押します。

視聴年齢制限を解除してDVDを再生するときは

手順7で「レベル」を「切」にして、▷を押します。

暗証番号を変更したいときは

1 手順3で↑／↓を使って「暗証番号変更」を選び、決定ボタンを押す。
暗証番号変更の画面が出ます。

2 もう一度手順2と手順3を行い、新しい暗証番号を登録する。

視聴制限のレベルを設定したディスクを再生したいときは

1 ディスクを入れて、▷を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。

2 4桁の暗証番号を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押す。
再生が始まります。
DVDの再生をやめると、視聴制限のレベルはもとに戻ります。

登録した暗証番号を忘れてしまったときは

視聴年齢制限画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

ご注意

- 視聴年齢制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- 暗証番号の設定をしないと、設定値の変更ができません。
- DVDによっては、再生中に視聴制限レベルの変更を要求されることがあります。このときは暗証番号を入力してレベルを変更してください。なお、停止すると元のレベルに戻ります。
- 視聴年齢制限とカスタム視聴制限（70ページ）は同じ暗証番号を使います。

使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044
イギリス	2184
イタリア	2254
インド	2248
インドネシア	2238
オーストラリア	2047
オーストリア	2046
オランダ	2376
カナダ	2079
韓国	2304
シンガポール	2501
スイス	2086
スウェーデン	2499
スペイン	2149
タイ	2528
台湾	2543
中国	2092

使用する地域	コード番号
チリ	2090
デンマーク	2115
ドイツ	2109
日本	2276
ニュージーランド	2390
ノルウェー	2379
パキスタン	2427
フィリピン	2424
フィンランド	2165
ブラジル	2070
フランス	2174
ベルギー	2057
ポルトガル	2436
香港	2219
マレーシア	2363
メキシコ	2362
ロシア	2489

■音声トラック自動選定モード

複数の音声記録方式が用意されているDVDを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、MPEGオーディオ*、ドルビーデジタル）を優先して再生することができます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

- 切：優先しない。
- 入：優先する。

* DVP-FX1のみ

ご注意

- この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは「音声トラック自動選定モード」の設定が「言語設定」の「音声言語」（88ページ）より優先されるためです。
- 「オーディオ設定」の「音声デジタル出力」で「DTS」を「切」に設定していると、「音声トラック自動選定モード」で「入」を選んで、DTS音声がチャンネル数が最も多くても、DTS音声は再生されません。
- PCM、DTS、MPEGオーディオ、ドルビーデジタルのチャンネル数が同じだった場合、PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEGオーディオの順で優先されます。
- DVDによっては優先する音声があらかじめ決められていることがあります。この場合「入」に設定しても、チャンネル数の多い音声記録方式が優先されないことがあります。

■パワーセーブ（DVP-FX1のみ）

パワーセーブ機能を入／切します。パワーセーブ機能を使うと、バッテリーでの使用時に電池の消耗を抑えるために、液晶画面の明るさを下げ、表示窓を消灯することができます。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。

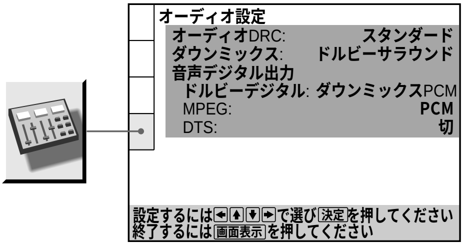
- 切：パワーセーブ機能を使わない。
- 入：パワーセーブ機能を使う。バッテリーの消費を約10%抑えることができる。

ご注意

「入」に設定しても、次の場合には表示窓が点灯します。
– LINE SELECTスイッチを「IN」にして、本機につないだ機器の画像を見るとき
– 電源を入れた直後

音声に関する設定（オーディオ設定）

再生するときの音の設定を、再生や接続などの条件に合わせて設定します。
お買い上げ時は下線の付いている項目に設定されています。



設定画面で「オーディオ設定」を選びます。

■オーディオDRC (Dynamic Range Control)

DVDの音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。オーディオDRC機能のあるDVDを再生しているときのみ効果があります。この機能は、音声コードでつないだときの出力および、「音声デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に、「MPEG*」を「PCM」に設定したとき、光デジタル接続コードでつないだときの出力に働きます。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

- スタンダード：通常は「スタンダード」にする。
- テレビ：小さい音までよく聞こえるようにする。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果がある。
- ワイドレンジ：臨場感のある音になる。高品質のスピーカーを使っているときに効果がある。

ご注意

オーディオDRC機能のないDVDを再生しているときは、効果がありません。

■ダウンミックス

LS（リア：左）またはRS（リア：右）、S（リア：モノラル）などのリア信号成分を含むドルビーデジタル方式で記録されているDVDを再生するとき、ダウンミックスの方式を切り換えます。リア信号成分について詳しくは、「再生しているチャンネルを表示する」（60ページ）をご覧ください。

「ダウンミックス」の設定は次の場合の出力に影響します。
– 音声コードでつないだとき
– 光デジタル接続コードでつないだとき（「音声デジタル出力」の「ドルビーデジタル」を「ダウンミックスPCM」に設定したとき）

- ドルビーサラウンド：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応しているオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）の効果のかかった出力信号が2チャンネルにダウンミックスされる。
- ノーマル：ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器に接続しているときに選ぶ。ドルビーサラウンド（プロロジック）効果がかかっていない信号が出力される。

音声デジタル出力の信号を設定する

光デジタル接続コードを使って、OPTICAL OUT端子に次のような機器をつないだときの、音声信号の出力方式を設定します。
－デジタル端子のあるアンプ
－ドルビーデジタル、MPEG*またはDTSデコーダー内蔵のオーディオ機器
－MDデッキまたはDATデッキ
接続について詳しくは、25、28ページをご覧ください。

* MPEGオーディオ方式の音声出力には、DVP-FX1のみ対応しています。

ご注意

サンプリング周波数が96 kHzの音声トラックを再生しているとき、OPTICALOUT端子から出力する信号は48 kHzに変換されて出力されます。AUDIO OUT端子から出力する信号は96 kHzのままアナログ信号に変換されて出力されます。

■ ドルビーデジタル

光デジタル接続コードでつないだときに出力するドルビーデジタル信号の方式を選びます。

- ダウンミックスPCM：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器につないだとき、ドルビーデジタルの音声を再生すると2chにダウンミックスされる。出力される信号のサラウンド効果の有無は「オーディオ設定」の「ダウンミックス」の設定によって決まる。
- ドルビーデジタル：ドルビーデジタルデコーダーを内蔵したオーディオ機器につないで音を出すときに選ぶ。
  ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたりスピーカーを破損したりすることがある。

ご注意

「ダウンミックスPCM」を選んでいるときは、「VES」を「切」に設定してください。「切」にしないと、光デジタル接続コードでつないだときに信号が出力されなくなります。

■MPEG（DVP-FX1のみ）

光デジタル接続コードでつないだときに出力するMPEGオーディオ信号の方式を選びます。

- PCM：MPEGデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。MPEGオーディオの音声を再生すると、光デジタル接続コードでつないだときにステレオの音声が出力される。
- MPEG：MPEGデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
  MPEGデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある。

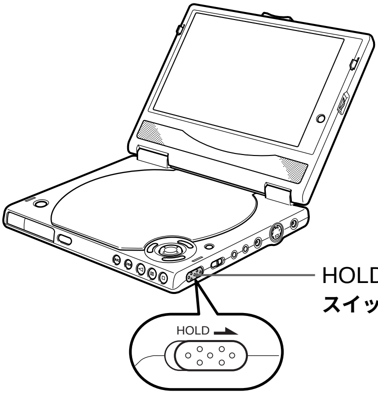
■DTS

光デジタル接続コードでつないだときに出力するDTS信号の方式を選びます。

- 切：DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
- 入：DTSデコーダーを内蔵しているオーディオ機器をつないでいるときに選ぶ。
  DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときは、この設定にしない。誤って設定すると、音が出なかったり異音が出て耳に悪影響を及ぼしたり、スピーカーを破損したりすることがある。

本体ボタンの誤操作を防ぐ（ホールド）

本体の持ち運び中などにボタンが誤って押されるのを防ぐために、本体ボタンの操作を無効にすることができます（ホールド）。
本体のHOLDスイッチでホールド状態にできます。
（ホールドを設定しても、リモコンでは操作できます。）



HOLDスイッチを矢印の方向にずらす。

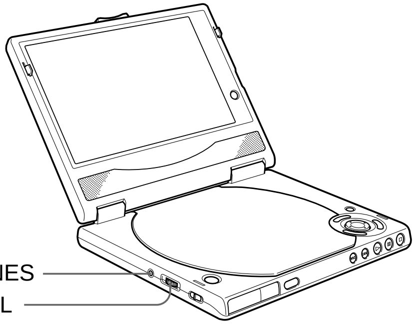
本体ボタンの操作が無効になります。
このときボタンを押すと、表示窓に「Hol d」と表示されます。

ホールドを解除するには

HOLDスイッチを元に戻します。

ヘッドホンを使う

別売りのヘッドホンを本機のPHONES端子につないで音声を聞くことができます。
VOLダイヤルで音量を調節できます。



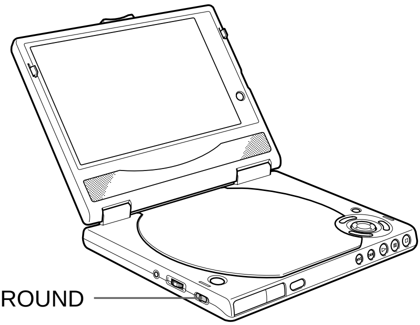
再生の前に

VOLダイヤルをMIN（最小）にしてから▷を押して再生し、少しずつ音量を上げてください。

ヘッドホンサラウンド機能を使う

ヘッドホンサラウンド機能を使うと、ステレオ音声を3D立体音像処理することによって、臨場感のあるサラウンド音声をヘッドホンで楽しむことができます。ヘッドホンサラウンド機能はSRS HEADPHONE*技術を使用しています。

ヘッドホンサラウンド機能を使うときは、本体のHP SURROUNDスイッチを「ON」にします。



ご注意

- ヘッドホンサラウンド機能とVES機能を同時に使うことはできません。ヘッドホンサラウンド機能が働いているとき、「VES」の設定は自動的に「切」になります（65ページ）。
- HP SURROUNDスイッチを切り換えたとき、音声が一瞬だけ途切れることがあります。
- 再生するディスクによっては、ヘッドホンサラウンド機能の効果がわかりにくいことがあります。

* SRS HEADPHONEと(●)記号は米国、および選択された諸外国におけるSRS Labs, Inc. の商標です。
SRS HEADPHONE技術はSRS Labs, Inc のライセンスの下に製品化されています。

ケーブルを使わずに映像を見る

–– LASER AVLINK

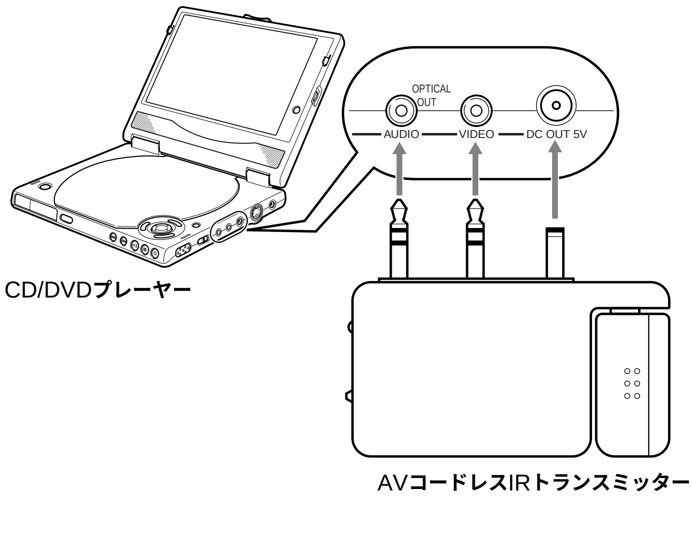
LASER AVLINK*（レーザーAVリンク）機能を使うと、ケーブルを使わなくても本機の再生映像をテレビで見ることができます。
LASER AVLINKとは、マークのあるLASER AVLINK対応の機器間で、赤外線による映像と音声の送受信を行うシステムです。

LASER AVLINK機能を使うには、次の機器が必要です。
- AVコードレスIRトランスミッター IFV-FX1（DVP-FX1：別売り、DVP-F5：付属）
- AVコードレスIRレシーバー IFT-R20など（別売り）

* LASER AVLINKはソニー株式会社の商標です。

接続

1 AV**コードレス**IR**トランスミッター** IFV-FX1**を本機につなぐ。**



2 AV**コードレス**IR**レシーバー**（IFT-R20**など、別売り）をテレビにつなぐ。**

詳しくはAVコードレスIRレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

その他の操作

操作

1 **テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。**

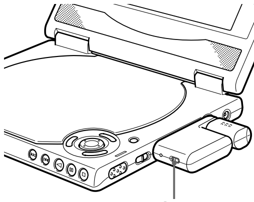
2 **IRレシーバーの電源を入れる。**

3 **（DVP-FX1のみ）本機のLINE SELECTスイッチを「OUT」にする。**

4 **本機の電源を入れる。**

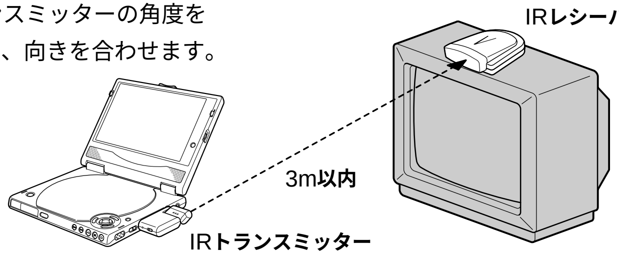
5 **本機につないだIRトランスミッター（IFV-FX1）のPOWERスイッチを「ON」にして、電源を入れる。**

POWERインジケーターが点灯します。



6 **IRトランスミッターの発光部とテレビにつないだIRレシーバーの向きを合わせる。**

IRトランスミッターの角度を調節して、向きを合わせます。



7 **本機で再生を始める。**

8 **再生映像がテレビにきれいに映るように、IRトランスミッターとIRレシーバーとの距離や角度を調節する。**

本機の電源を切るときは

必ずIRトランスミッターの電源を切ってから、本機の電源を切ってください。

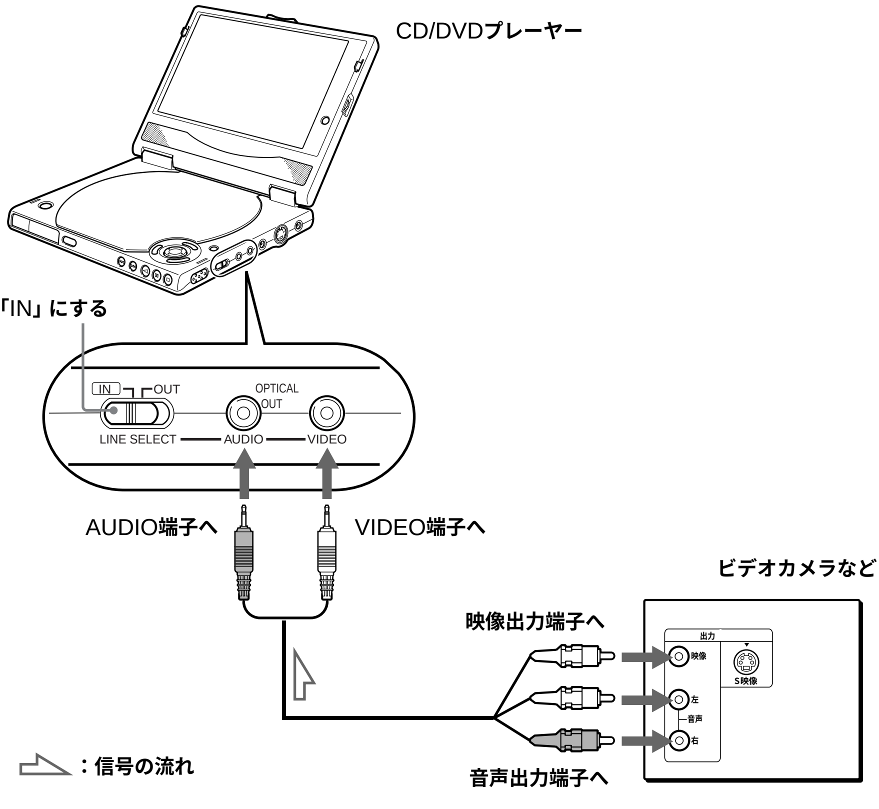
ご注意

- IRトランスミッターとIRレシーバーを、手や家具などでさえぎらないようにしてください。
- 赤外線は、壁や、すりガラスなどを貫通することができません。IRレシーバーとの間に障害物がないところに本機を設置してください。ガラスを通してLASER AVLINK機能を使うと、赤外線の届く距離が短くなります。
- 本機をテレビに近づけすぎないでください。テレビにノイズが生じる場合があります。
- バッテリーパックで使うとき、電池残量が少ないと画像や音声にノイズが入ることや、赤外線の届く距離が短くなることがあります。LASER AVLINK機能を使うときは、ACパワーアダプターをつなぐか、バッテリーを充電してください。

つないだ機器の映像を見る（DVP-FX1のみ）

本機にビデオカメラなどをつないで、つないだ機器の再生映像を液晶画面で見ることができます。

LINE SELECTスイッチは「IN」に切り換えてください。



液晶画面のカラーテレビ方式を選べます

LINE SELECTスイッチが「IN」のときは、液晶画面のカラーテレビ方式（NTSCまたはPAL）を入力信号に合わせて選ぶことができます。
本体のDISPLAYボタンを2秒以上押すと、カラーテレビ方式が切り換わります。
カラーテレビ方式がNTSCに設定されると、表示窓に「NTSC」表示が点灯します。
PALに設定されると「NTSC」表示が消灯します。

ご注意

LINE SELECTスイッチを「IN」にすると、ディスクを再生できません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいときは、修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

■ 電源

症状	原因／対策
電源が入らない。	→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。 → 付属のACパワーアダプターを使用していない。 必ず付属のACパワーアダプターを使用する。 → HOLD（ホールド）になっている。 HOLDスイッチで解除する。 → ACパワーアダプターをはずして、10分以上放置する。 その後もう一度ACパワーアダプターをつなぎ、電源を入れる。 それでも電源が入らない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
電源が自動的に切れる。	→ オートパワーオフ機能が働いている。 ディスクが再生されなかったり、本体やリモコンの操作を30分以上行わなかったりすると、本機の電源が自動的に切れる。 POWERボタンで電源を入れる。 → バッテリーが切れている。 バッテリーを充電する。

■ 映像

症状	原因／対策
映像が出ない。	→ LINE SELECTスイッチが「IN」になっている。 「OUT」にする（DVP-FX1のみ）。 → 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。 → 接続コードが断線している。 → 付属の接続コードを使っていない。 → テレビの入力端子を間違えている（23ページ）。 → テレビの電源が入っていない。 → テレビの入力切り換えでCD/DVDプレーヤーの映像が映るようにしていない。 → 画面モードが「切」になっている（DVP-FX1のみ）。 DISPLAY MODEボタンで画面モードを切り換える。

症状		原因／対策
映像が乱れる。	→	ディスクに汚れ、傷がある。
	→	本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。 本機をテレビに直接接続していても画質に問題が生じる場合は、テレビのS映像入力端子へ接続する（23ページ）。
	→	本機を振動のない安定した場所に置いていない。
	→	LASER AVLINK機能を使っている。画像の乱れが気になるときは、付属の映像音声コードでテレビとつなぐ。
設定画面の「画面設定」の「TVタイプ」で設定した画像アスペクト比で再生できない。	→	画像アスペクト比が固定されているディスクを再生している。
画面に英語でメッセージが表示される。	→	設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」が「ENGLISH」になっている（87ページ）。
ビデオCDのメニュー画面が表示されない。	→	PBC対応でないビデオCDを再生している。
	→	PBC対応のビデオCDで決められた操作をしていない。 ビデオCDの取扱説明書もあわせて見る。

■ 音声

症状		原因／対策
音が出ない。	→	接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。
	→	接続コードが断線している。 新しい接続コードを使う。
	→	アンプの入力端子を間違えている（26ページ）。
	→	アンプまたはテレビの電源が入っていない。
	→	アンプの入力切換でCD/DVDプレーヤーの音声が出るようにしていない。
	→	一時停止、スロー再生になっている。
	→	早送りまたは早戻しになっている。
	→	スピーカーの接続を確認する（29ページ）。 接続したアンプの取扱説明書もあわせて見る。
	→	光デジタル接続コードで接続しているときに、コントロールメニュー画面で「VES」を「切」以外の設定にしている。 「VES」を「切」にする（65ページ）。
	→	音声コードでつないでいるときは、DTS音声を再生しても音が出ない（35ページ）。
	→	ヘッドホンのプラグがしっかり差し込まれていない。
	→	VOLダイヤルが「MIN」になっている。
	→	液晶パネルを閉じると、本体のスピーカーから音が出ない（DVP-FX1のみ）。

症状		原因／対策
雑音が多い。	→	ディスクに汚れ、傷がある。
	→	音声コードでつないでいるときは、CDのDTS音声を再生すると雑音が出る（35ページ）。
	→	本機を振動のない安定した場所に置いていない。
ビデオCD、CDを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。	→	コントロールメニュー画面で「音声」を「ステレオ」にする（59ページ）。
	→	正しく接続されているか確認する（23、26、29ページ）。
ドルビーデジタルの音声トラックを再生しているのにサラウンド効果がかからない。	→	スピーカーの接続を確認する（29ページ）。 接続した5.1ch入力端子付きAVアンプの取扱説明書もあわせて見る。
	→	ドルビーデジタルのディスクであっても、5.1chすべてから出力されないもの（モノラルやステレオなど）がある。

■ 操作

症状		原因／対策
リモコンで操作できない。	→	リモコンと本体との間に障害物がある。
	→	リモコンと本体との距離が離れている。
	→	本体のリモコン受光部 🅁 に向けて操作していない。
	→	リモコンの電池が消耗している。
	→	バッテリーパックでの使用時は、まず本体のPOWERボタンで電源を入れる。
	→	バッテリーパックでの使用時、電源が切れてから10分以上たつと、リモコンの電源ボタンでは電源を入れられない。
	→	他機のリモコンを使っている。
再生が始まらない。	→	ディスクが入っていない（テレビ画面に、「ディスクを入れてください」の表示が出ている）。
	→	ディスクが裏返しに入っている。 再生面を下にする。
	→	ディスクが斜めにずれて入っている。
	→	ディスクに汚れ、傷がある。
	→	CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている（15ページ）。
	→	本機で再生できない地域番号のDVDを入れている（13ページ）。
	→	結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再度電源を入れ直してから再生を始める（17ページ）。
	→	本機を振動のない安定した場所に置いていない。
	→	HOLD（ホールド）になっている。 HOLDスイッチで解除する。
	→	LINE SELECTスイッチが「IN」になっている。 「OUT」にする（DVP-FX1のみ）。

症状	原因／対策
VES（バーチャル エンハンスト サラウンド）機能が働かない。	→ ヘッドホンサラウンド機能が働いている。 HP SURROUNDスイッチを「OFF」にする。
再生がディスクの最初から始まらない。	→ プログラムまたはシャッフル、リピート、A-Bリピート再生になっている（73～82ページ）。 クリアボタンを押してこれらの機能を解除してから、再生を始める。 → リジューム再生になっている。 停止中に、本体またはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（39ページ）。 → 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。
再生が自動的に始まる。	→ 自動的に再生が始まるDVDを入れている。 → 設定画面の「視聴設定」の「自動再生」で「タイマー」を選んでいる（92ページ）。
再生が自動的に止まる。	→ ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。 → ディスクに汚れ、傷がある。
ストップ、サーチ、スロー、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作ができない。	→ 操作を禁止しているディスクを再生している。 ディスクに付属の説明書もあわせて見る。
プレイモードのいろいろな再生（シャッフル再生、プログラム再生など）ができない。	→ DVD、ビデオCDによってはできない場合がある。
希望する言語で画面表示されない。	→ 設定画面の「言語設定」の「画面表示言語」で希望の言語を選ぶ。
音声言語を変更できない。	→ 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。 → 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。
字幕を変更できない。	→ 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。 → 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。
字幕を消すことができない。	→ 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。
アングルを変更して見ることができない。	→ 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない。 → アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。
正常に動作しない。	→ 静電気などの影響で正常に動作しなくなったときは、ACパワーアダプターを抜き差しするか、バッテリーパックを取り付け直して、もう一度動作させる。

症状		原因／対策
表示窓に「Lo dc In」と表示されている。	→ →	電源コードをコンセントにつないでいるか確認する。 ACパワーアダプターをいったん本機からはずし、再びつなぐ。 付属のACパワーアダプターを使用していない。
表示窓に「HI dc In」と表示されている。	→	付属のACパワーアダプターを使用していない。
表示窓に「HI batt」と表示されている。	→	バッテリーパックに問題がある。 バッテリーパックを取りはずし、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
表示窓に「」が点滅している。	→	充電に問題がある。 いったんACパワーアダプターとバッテリーパックを取りはずしてから、再度取り付けて充電する。 それでも「」が点滅していたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
表示窓に「HItEMP」と表示され、「」が点滅している。	→	充電中に本機とバッテリーパックが異常に加熱している。 充電は室温（5℃～35℃）で行う。
表示窓に「dcout」と表示されている。	→	DC OUT端子につないだ機器（AVコードレスIRトランスミッター、TV/FMチューナーユニットなど）に問題がある。 取りはずした後、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。
画面および表示窓に5桁のアルファベットと数字が表示されている。	→	自己診断機能が働いている。112ページの表にしたがって対応する。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、CD/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意をいただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

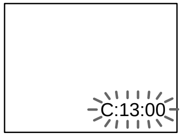
ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：DVP-FX1/F5
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

自己診断機能について

（アルファベットで始まる表示が出たら）

本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面および表示窓にアルファベットと数字で5桁のサービス番号（例：C 13 00）が表示され、点滅します。その際は次のように対応してください。



サービス番号の最初の3桁	**これが原因です**	**次のことを確認してください**
C 13	ディスクが汚れている	柔らかい布でディスクを拭く（18ページ）
C 31	ディスクが正しく入っていない	ディスクを正しく入れ直す
E XX （XXは任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働きました。	お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。その際はサービス番号の5桁すべてをお知らせください。 例：E 61 10

主な仕様

システム

形式　CD/DVDプレーヤー
信号方式　EIAJ標準、
DVP-FX1：NTSC/PALカラー方式
DVP-F5：NTSCカラー方式

音声特性

周波数特性　DVD（PCM 96 kHz再生時）：
4 Hz～44 kHz（±1 dB）*
DVD（PCM 48 kHz再生時）：
4 Hz～22 kHz（±0.5 dB）*
CD：4 Hz～20 kHz
（±0.5 dB）*
信号対雑音比（S/N比）
115 dB*（AUDIO OUT端子のみ）
全高調波ひずみ率
0.005 %*
ダイナミックレンジ
DVD：99 dB*
CD：98 dB*
ワウ・フラッター
測定限界（±0.001% W PEAK）
以下*
スピーカー出力　1W＋1W以上

電源、その他

電源　ACパワーアダプター
AC 100～240V、50/60 Hz
バッテリーパック
消費電力　10 W
（DVP-FX1、DVDビデオ再生時、液晶画面：入）
5 W
（DVP-F5、DVDビデオ再生時）
0.1 W（DVP-FX1/F5、待機時）
最大外形寸法　189×26.1×137 mm
（DVP-FX1）
189×16×137 mm
（DVP-F5）
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）
質量　約641 g（DVP-FX1）
約308 g（DVP-F5）
許容動作温度　5～35°C
許容動作湿度　5～80 %

* EIAJ（日本電子機械工業会）の規格による測定値です。96 kHzPCM音声の測定はAUDIO OUT端子を使用。96 kHzPCM音声は、OPTICAL OUT端子からは48 kHzに変換されて出力されます。

入出力端子

端子名	端子形状	最大出力レベル	最大入力レベル*	負荷インピーダンス
AUDIO	ステレオミニジャック	2 Vrms (50 kΩ)	2 Vrms	10kΩ以上
OPTICAL OUT	光出力コネクター	–18 dBm		発光波長:660 nm
VIDEO	ミニジャック	1.0 V_{P-P}	1.0 V_{P-P}	75 Ω 同期負
S VIDEO OUT	4 ピンミニDIN	輝度信号：1.0 V_{P-P} 色信号：0.286 V_{P-P}		75 Ω 同期負 75 Ω 終端
PHONES	ステレオミニジャック	12 mW + 12 mW		32 Ω

* DVP-FX1のみ

付属品

19ページをご覧ください。

別売りアクセサリー

バッテリーパック	NP-FX1
AVコードレスIRレシーバー	IFT-R20/R10
AVコードレス IRトランスミッター	IFV-FX1
FM/TVチューナー （DVP-FX1専用）	TGV-FX1
光デジタル接続コード	POC-15AB/15B

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

視聴年齢制限（92ページ）
国ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDの機能。制限のしかたはDVDによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

タイトル（14ページ）
DVDに記録されている映像や曲の区切りのいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（あるいは1曲）にあたる。それぞれのタイトルに順に付けられた番号をタイトル番号という。

チャプター（14ページ）
DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルより小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成され、それぞれのチャプターに順に付けられた番号をチャプター番号という。

デジタルシネマサウンド（DCS）（65ページ）
ソニーが開発したホームシアター用サラウンド技術のコンセプト名。従来の音楽演奏用の空間をベースとしたサラウンドとは違い、映画製作スタジオの音場をシミュレートした、「映画館の迫力を家庭で楽しむ」ためのサラウンドになっている。DCSにはさまざまなサラウンドプログラムが用意されている。たとえば、「VES（バーチャル エンハンスト サラウンド）」は、フロントスピーカー2台のみで後方に複数のスピーカーを配置したかのようなサラウンドを楽しむことができる。

トラック（14ページ）
CDやビデオCDに記録されている、映像や曲の区切り（1曲分）のこと。それぞれのトラックに順に付けられた番号をトラック番号という。

ドルビーデジタル（25、99ページ）
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジック（99**ページ**）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、リアに信号を出力する。リアチャンネルはモノラルになる。

DTS（15、100**ページ**）
デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術であり、5.1チャンネル・サラウンドに対応している。リアチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。
全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションがよく、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ビットレート（68、69**ページ**）
DVDに圧縮して記録されている画像と音声の、1秒あたりの情報量を示す値。単位は画像の場合Mbps（Mega（メガ） bit（ビット） per（パー） second（セコンド））で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表す。音声の場合の単位はkbps（kilo（キロ） bit（ビット） per（パー） second（セコンド））。
この値が大きいほど情報量は多くなるが、必ずしも画質や音質とは直接関係しない。

ビデオCD（13**ページ**）
動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1（エムペグ）」を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。本機は両方のバージョンに対応している。

マルチアングル（63**ページ**）
DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ（59、87**ページ**）
DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

プレイバックコントロール（PBC）
（43**ページ**）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型のソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめる。

DVD（13ページ）

CDと同じ直径で、最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB(Giga（ギガ） Byte（バイト））とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。
またマルチアングル、マルチランゲージ、視聴年齢制限などさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができる。

MPEGオーディオ（25、100ページ）

ISO/IECが認定した符号化方式の国際標準で、デジタル音声信号の圧縮に用いられる。MPEG1は2チャンネルステレオ、MPEG2は7.1チャンネルサラウンドまでの音声に対応している。

言語コード一覧表

詳しくは59、62、87ページをご覧ください。
詳しくは59、62、87ページをご覧ください。

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

コード	言語	コード	言語
1027	Afar	1183	Irish
1028	Abkhazian	1186	Scots Gaelic
1032	Afrikaans	1194	Galician
1039	Amharic	1196	Guarani
1044	Arabic	1203	Gujarati
1045	Assamese	1209	Hausa
1051	Aymara	1217	Hindi
1052	Azerbaijani	1226	Croatian
1053	Bashkir	1229	Hungarian
1057	Byelorussian	1233	Armenian
1059	Bulgarian	1235	Interlingua
1060	Bihari	1239	Interlingue
1061	Bislama	1245	Inupiak
1066	Bengali;Bangla	1248	Indonesian
1067	Tibetan	1253	Icelandic
1070	Breton	1254	Italian
1079	Catalan	1257	Hebrew
1093	Corsican	1261	Japanese
1097	Czech	1269	Yiddish
1103	Welsh	1283	Javanese
1105	Danish	1287	Georgian
1109	German	1297	Kazakh
1130	Bhutani	1298	Greenlandic
1142	Greek	1299	Cambodian
1144	English	1300	Kannada
1145	Esperanto	1301	Korean
1149	Spanish	1305	Kashmiri
1150	Estonian	1307	Kurdish
1151	Basque	1311	Kirghiz
1157	Persian	1313	Latin
1165	Finnish	1326	Lingala
1166	Fiji	1327	Laothian
1171	Faroese	1332	Lithuanian
1174	French	1334	Latvian; Lettish
1181	Frisian	1345	Malagasy

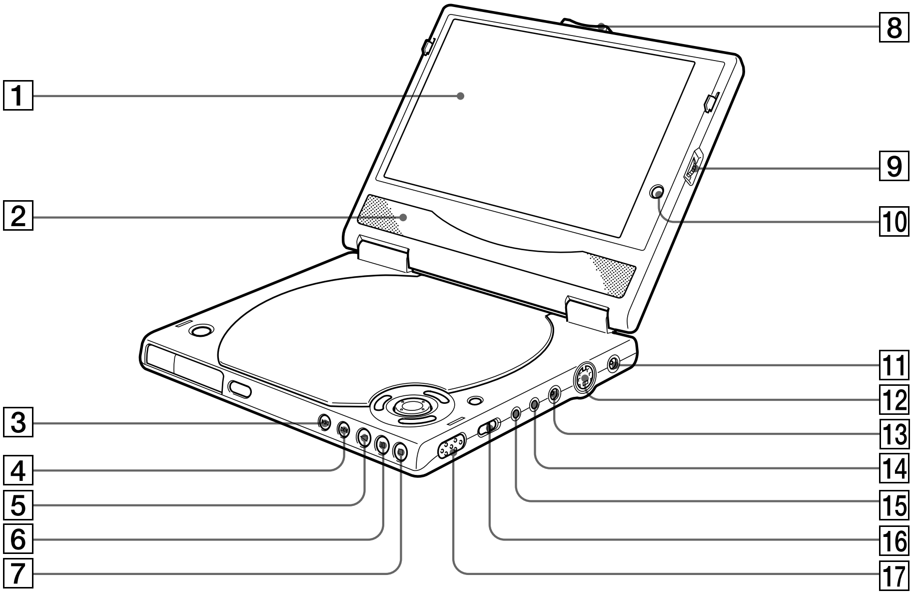
コード	言語	コード	言語
1347	Maori	1516	Swedish
1349	Macedonian	1517	Swahili
1350	Malayalam	1521	Tamil
1352	Mongolian	1525	Telugu
1353	Moldavian	1527	Tajik
1356	Marathi	1528	Thai
1357	Malay	1529	Tigrinya
1358	Maltese	1531	Turkmen
1363	Burmese	1532	Tagalog
1365	Nauru	1534	Setswana
1369	Nepali	1535	Tonga
1376	Dutch	1538	Turkish
1379	Norwegian	1539	Tsonga
1393	Occitan	1540	Tatar
1403	(Afan)Oromo	1543	Twi
1408	Oriya	1557	Ukrainian
1417	Punjabi	1564	Urdu
1428	Polish	1572	Uzbek
1435	Pashto; Pushto	1581	Vietnamese
1436	Portuguese	1587	Volapük
1463	Quechua	1613	Wolof
1481	Rhaeto-Romance	1632	Xhosa
1482	Kirundi	1665	Yoruba
1483	Romanian	1684	Chinese
1489	Russian	1697	Zulu
1491	Kinyarwanda		
1495	Sanskrit		
1498	Sindhi	1703	**無指定**
1501	Sangho		
1502	Serbo-Croatian		
1503	Singhalese		
1505	Slovak		
1506	Slovenian		
1507	Samoan		
1508	Shona		
1509	Somali		
1511	Albanian		
1512	Serbian		
1513	Siswati		
1514	Sesotho		
1515	Sundanese		

各部のなまえ

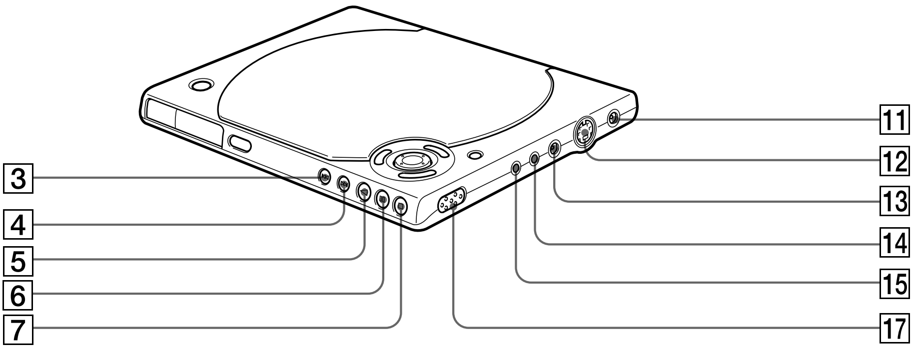
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体

DVP-FX1



DVP-F5



1 **液晶画面** （20）
再生映像などを表示する。

2 **スピーカー** （21）
音声を出力する。

3 **⏮ PREV（前）ボタン**（36）
前の場面や曲に戻すときに押す。

4 **⏭ NEXT（次）ボタン**（36）
次の場面や曲に進めるときに押す。

5 **▷（再生）ボタン** （34）
再生するときに押す。

6 **❚❚（一時停止）ボタン** （36）
再生を一時停止するときに押す。

7 **■（停止）ボタン** （36）
再生を止めるときに押す。

8 PUSH OPEN**ボタン** （20）
液晶パネルを開ける。

9 BRIGHT**ダイヤル** （20）
液晶画面の明るさを調節する。

10 DISPLAY MODE**ボタン** （21）
液晶画面の画面モードを切り換える。

11 DC IN 10V**端子** （31）
ACパワーアダプターをつなぐときに使う。

12 S VIDEO OUT（S**映像出力）端子**（23、26、29）
テレビやモニターのS映像入力端子とつなぐときに使う。

13 DC OUT 5V**端子** （103）
他機のDC IN 5V端子とつなぐときに使う。

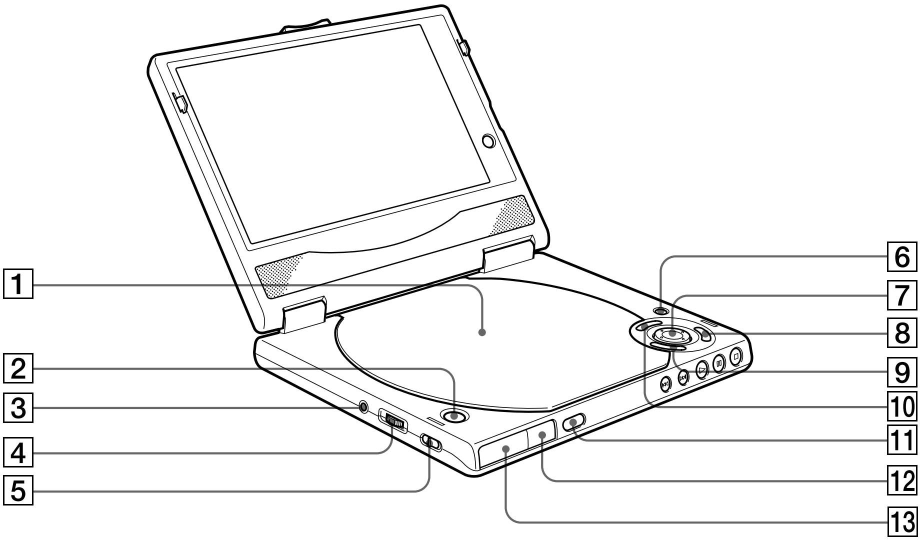
14 VIDEO IN/OUT**（映像入出力）端子** （23、26、29）
テレビやモニターの映像入出力端子とつなぐときに使う。

15 AUDIO IN/OUT**（音声入出力）**/ OPTICAL OUT**（音声光デジタル出力）端子** （23、26、29、105）
テレビやアンプの音声入出力端子とつなぐときに使う。また、光デジタル接続コードでオーディオ機器とつなぐときに使う。

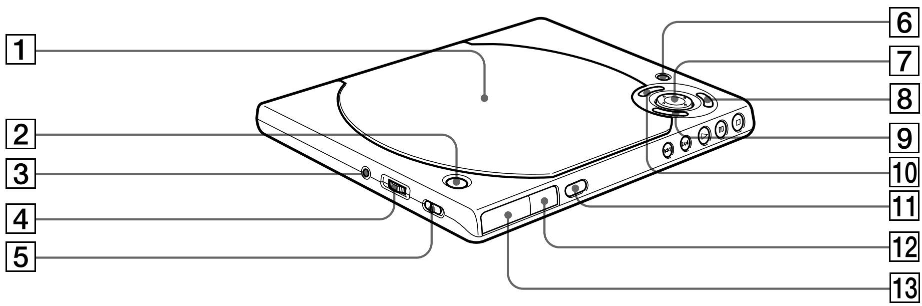
16 LINE SELECT**スイッチ** （23、26、29、105）
本機のVIDEO/AUDIO端子の入出力を切り換える。

17 HOLD**スイッチ** （101）
本機のボタン操作を無効にする。

DVP-FX1



DVP-F5



1 **ディスクぶた** （34）

2 OPEN（オープン）**ボタン** （34）

ディスクカバーを開くときに押す。

3 PHONES（ヘッドホン）**端子** （102）

ヘッドホンをつなぐときに使う。

4 VOL（ボリューム）**ダイヤル** （21）

スピーカーやヘッドホンの音量を調節する。

5 HP SURROUND（ヘッドホン サラウンド）**スイッチ** （102）

ヘッドホンサラウンド機能を入／切する。

6 ↶ RETURN（リターン）**（リターン）ボタン** （43、49）

ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

7 ←／↑／↓／→ ／ENTER（エンター）**（決定）ボタン** （49、83）

画面に表示されている項目を選択/決定するときに使う。

8 DISPLAY（ディスプレイ）**（画面表示）ボタン** （49）

コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。

9 TITLE（タイトル）**（タイトル）ボタン** （41）

タイトルメニューを出すときに押す。

10 DVD MENU（ディーブイディーメニュー）（DVD**メニュー）ボタン** （42）

DVDメニューを出すときに押す。

11 POWER（パワー）**（電源）ボタン** （34）

本機の電源を入／切するときに押す。

12 **（リモコン受光部）** （19）

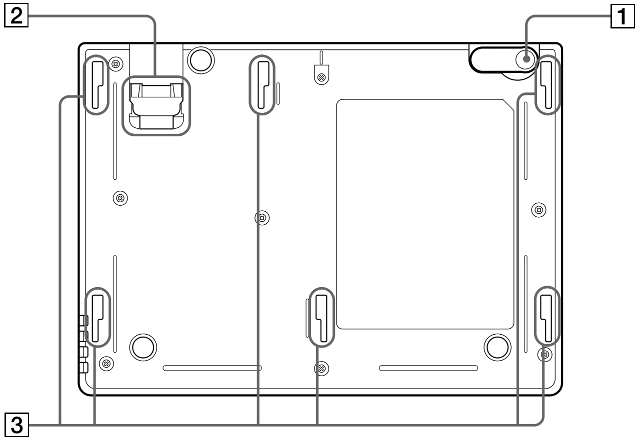
リモコンからの信号を受信する。

13 **表示窓** （45）

再生時間などを表示する。

その他

本体底面

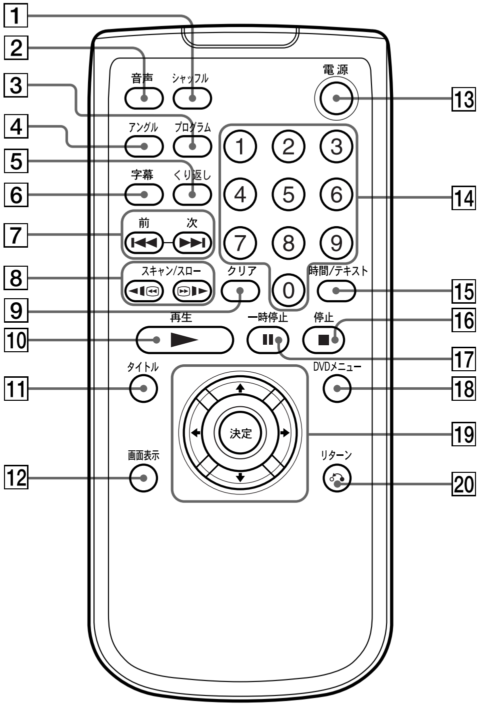


1 **転倒防止タブ**（DVP-FX1**のみ**）
（20）
液晶パネルを開いたときに、本機が転倒するのを防ぐために使う。

2 **バッテリー接続端子**（16）

3 **バッテリー用ガイド穴**（16）

リモコン



1 **シャッフルボタン** （77）
シャッフル再生をするときに押す。

2 **音声ボタン** （59）
DVDやビデオCDの音声を切り換えるときに押す。

3 **プログラムボタン** （73）
プログラム再生をするときに押す。

4 **アングルボタン** （63）
DVDのアングルを切り換えるときに押す。

5 **くり返しボタン** （79）
リピート再生をするときに押す。

6 **字幕ボタン** （62）
DVDの字幕を切り換えるときに押す。

7 **⏮ 前/⏭次ボタン** （36）
前の場面や曲に戻したり、次の場面や曲に進めたりするときに押す。

8 **◄❙⏪／⏩❙►スキャン／スローボタン** （38）
画像を見ながら場面や曲を探すとき、またはスロー再生をするときに押す。

9 **クリアボタン** （75、77、80、82）
選んだ数字を取り消すときに使う。

⑩ ▷**再生ボタン**（34）
再生するときに押す。

⑪ **タイトルボタン**（41）
タイトルメニューを出すときに押す。

⑫ **画面表示ボタン**（49）
コントロールメニュー画面を表示させるときに押す。

⑬ **電源ボタン**（34）
本機の電源を入／切するときに押す。

⑭ **数字ボタン**
画面に表示されている項目を選ぶときに使う。

⑮ **時間／テキストボタン**
（56、57、58）
表示窓に再生時間などを表示させるときに押す。

⑯ ■**停止ボタン**（36）
再生を止めるときに押す。

⑰ ❚❚**一時停止ボタン**（36）
再生を一時停止するときに押す。

ディーブイディーメニュー
⑱ DVD MENU（DVD**メニュー**）**ボタン**（42）
DVDメニューを出すときに押す。

⑲ ←／↑／↓／→ ／**決定ボタン**
（49、83）
画面に表示されている項目を選択/決定するときに使う。

リターン
⑳ ↶ RETURN（**リターン**）**ボタン**
（43、49）
ひとつ前の選択画面に戻りたいときに押す。

索引

五十音順

アルファベット/数字順